

大阪科学機器協会
創立70周年記念誌

CONTENTS

- 02 70周年記念祝賀会
- 06 70周年記念祝宴
- 15 message70
- 22 70周年史版コロナを超えて
- 38 70周年記念座談会
- 44 ORK GRAFFTI
- 64 会員一覧



大阪科学機器協会 創立70周年記念祝賀会が 開催される

会員122社・165名、来賓22名の方々にご参集いただき盛大に式典が開催される

大阪科学機器協会の原点となった日本理化学機器商工会近畿支部「大阪部会」が発足したのは1952(昭和27)年のこと。その後1960(昭和35)年に東京の組織から独立する形で「大阪理化学機器商工会」へと改変しました。「大阪部会」成立の年を起点とするなら今年で大阪科学機器協会は創立70周年。コロナ禍で

大事な行事が中止や延期に追い込まれる中、11月11日、創立70周年記念式典と祝宴が平穩、かつ盛大に執り行われました。

1952年の「大阪部会」は86社での発足でしたが、現在は207社が加盟。今回は会員122社・165名の方々と、ご来賓として議員や官公庁の方をはじめ、全国の科学機器協会理事長の方々がご参集下さり、祝賀会が和やかな雰囲気の中で行われました。

式典の冒頭には70年の協会の歴史をまとめたVTRが流れ、古い時代

を知らない会員諸氏も興味深く見入っていたようでした。

次に、井内理事長の開式の挨拶の後、ご来賓の方々からご祝辞をいただきました。さらに、理化学業界の振興と府の産業の発展に寄与したとして、大阪科学機器協会が大阪府知事から表彰され、この日井内理事長が協会を代表して表彰状を受け取りました。

式典終了後はTVなどで活躍する円広志氏をお迎えしてのトークショーを開催。円氏も来年70歳を

迎えるそうですが、すこぶるお元気で、協会もかくあるべしと言うことを肝に銘じたトークショーでした。

祝宴は場所を3階のエンパイアルームに移して開催。3年ぶりの対面パーティーとあり、感慨深いものがありました。会場にいた誰もが感じていたと思いますが、人は直接会って話すことで、何倍もの情報と安らぎを得ることを改めて知り、次の10年をいかに過ごすべきかを考えさせられた一日でした。



ご来賓の方々
大阪はもとより日本各地から、大阪科学機器協会創立70周年のお祝いに多くの方が駆けつけてくださった。

70周年式典 来賓 (敬称略)

| 団体名 | 役職名 | 氏名 |
|-------------------------|------|-------|
| 衆議院議員 | | 美延映夫 |
| 近畿経済産業局 産業部 | 次長 | 森下剛志 |
| 近畿経済産業局 産業部 製造産業課 | 係長 | 植田裕介 |
| 大阪府議会議員 | | 久谷眞敬 |
| 大阪府商工労働部中小企業支援室ものづくり支援課 | 課長 | 柏村幸一郎 |
| 一般社団法人 大阪医療機器協会 | 会長 | 千種康一 |
| 日本薬科機器協会 | 会長 | 酒井哲嗣 |
| 一般社団法人 日本科学機器協会 | 会長 | 長谷川壽一 |
| 東海科学機器協会 | 理事長 | 高木裕明 |
| 九州科学機器協会 | 理事長 | 高着泰則 |
| 北海道科学機器協会 | 理事長 | 横沢龍朗 |
| 東北科学機器協会 | 理事長 | 和田剛和 |
| 中四国科学機器協会 | 理事長 | 木村 稔 |
| 信越科学機器協会 | 理事長 | 五味 敦 |
| 北陸科学機器協会 | 理事長 | 前野光正 |
| 一般社団法人 日本科学機器協会 | 副会長 | 入江一光 |
| 一般社団法人 日本科学機器協会 | 副会長 | 柴田眞利 |
| 一般社団法人 日本科学機器協会 | 専務理事 | 梅垣喜通 |
| 大阪科学機器協会 | 名誉理事 | 松井義之 |
| 大阪科学機器協会 | 相談役 | 岸野俊夫 |
| 大阪科学機器協会 | 相談役 | 島田種雄 |
| 大阪科学機器協会 ORK II 会 | 代表幹事 | 安藤 仁 |



70周年に寄せて 開会の挨拶

大阪科学機器協会理事長
井内 卓嗣

大阪科学機器協会が設立されたのは、終戦から7年目の1952(昭和27)年。日本理化学機器商工会 近畿支部 大阪部会として発足し、10年後の1962(昭和37)年、今の大阪科学機器協会に改称されました。設立当時は、まだ連合国司令部が置かれていた時代。

同年4月にサンフランシスコ講和条約が発効したことにより、占領状態が解かれた年でもありました。当時の首相は、吉田茂。戦後、日本のレールを築き上げたと称される、気概に満ちた人物であります。想像するに、日本国内では、主権回復に、解放感と、明るい展望が、そこ・かしこで、熱く語られていたのではと思います。

街中でも、公衆電話が初めて登場するなど、便利な発明品が次々と生み出され、科学や技術の恩恵が、社会に浸透しはじめた時代でもありました。一方、先代から聞いた話では、「大阪の企業が、当時、全国へ行脚するも、大阪の産品は、サカモンといわれ、安かろう・悪かろうのイメージがあり、なかなか相手にしてもらえなかった」ということです。しかし反骨心と弛まぬ改良で、今となっては、世

界にも誇れる企業が多数輩出されているのは、各企業努力の賜物で、感謝の気持ちでいっぱいです。

古い白黒写真からは、「科学の力で日本を復興させよう！」という、気概に満ちた表情が溢れ出ています。激動の時代を経て、世界一の経済大国にもなった日本。時代とともに、自信に満ちた表情も変遷していくさまが、大変印象的でした。その後、バブル崩壊、失われた30年、ようやく抜けたトンネルの先には、実感は薄いものの、戦後最長となる景気拡大が続きました。しかしその間、世界は、加速的に成長し、日本は研究領域においても、アメリカや中国を筆頭にずいぶん遅れをとってしまいました。しかし、終わったことを嘆いても、何も変わりません。これから我々は「この時代とどう向き合い」「どう輝きを取り戻すのか」を、先人から問われているのだと、感じています。

環境、エネルギーをはじめ、社会の課題を解決するには、科学の力が、これまで以上に重要です。日本が持つ、潜在力を最大限発揮することは世界からも期待されています。

そのためにも日本の「研究成果の大いなる加速」に向け、業界が一丸となって、新たな取組みと、変革を行っていかねばなりません。

この70周年を先人を偲び、感謝するとともに、「後輩たちも頑張ってるな」と、思っ頂けるよう、次の10年に繋がる新たな大阪科学機器協会像を創造していかなければなりません。

どうか皆様のお力添えを、お願い致します。

本日は、限られた時間ではございますが、楽しんで頂ければ幸いです。



大阪科学機器協会が 府知事から表彰される。

業界の振興と大阪府の産業の発展に寄与したということで、70周年を期して吉村洋文大阪府知事より表彰されることになりました。

知事に代わり、大阪府商工労働部中小企業支援室ものづくり支援課の柏村幸一郎氏より表彰状が井内理事長に手渡されました。

来賓挨拶

国・府・市がタグを組んで みなさんの声を届けたい

衆議院議員 美延映夫さん



大阪科学機器協会の第1回総会
は美延さんが生まれた1961(昭和36)年に始まった。

北区で市会議員を務めていた頃からの付き合いですからもう20年ほどになります。

総会が始まったのは1961(昭和36)年と言うことですから私とちょうど同い年です。

今、2025年に開かれる2度目の国際博覧会に向けて準備をしておりますが、やはり物作りの町大阪はこれを起爆剤に、産業の再生を図っていただきたいと思っています。

国・府・市がしっかりタグを組み、みなさんのお声が届くよう架け橋になりたいと思いますので、今後も共に頑張ってください。

本日はおめでとうございます。



森下さんが経済産業省近畿経済産業局伊吹英明局長のメッセージも届けて下さった。

万博では関西全体をバビリオンとして ビジネスチャンスにつなげたい

近畿経済産業局産業部 次長
森下剛志さん

1952年の創立以来、景気の良いときだけではなく、特にバブル崩壊以後の30年は、大変な時期も過ごされたのではないかと思います。

しかし、来年2月には3年ぶりとなるJASIS 関西も開催されると伺っています。

どうか、みなさんの協力の下、成功裏に終わることを祈っております。本日は、伊吹英明近畿経済産業局長のお祝いの言葉も預かって参りました。

それによれば「3年後の万国博覧会では、関西全体をバビリオンと見立て、会場のみならず、会場外の取り組みを支え、ビジネスに最大限活用したい、と考えています。

そしてこれをさまざまな成長の機会としたい」ということです。

本日はおめでとうございます。

第2回 JASIS 関西を来春2月に 開催します。

一般社団法人日本科学機器協会 会長
長谷川壽一さん



1967(昭和42)年、第1回大阪科学機器展が開催される。これが科学技術の発展に大きく貢献した。

1967(昭和42)年に初めて開かれた大阪科学機器展は協会の大きな発展の礎になりました。

2016年を最後に機器展の見直しを図られ、その後、みなさんのご努力のお陰で2019年にJASIS 関西として再生。

来年2月には第2回目のJASIS 関西が開催されることになりました。やはり科学技術の発展が国家の発展を支えるのは言うまでもありません。

今後も日本の科学技術の先導役として力強く業界を牽引していただけることを切に願っています。



円広志氏を迎え トークショーを開催

70周年記念式典に今回関西の方になじみの深い円広志氏を招きトークショーを開催しました。探偵ナイトスクープのテーマ曲の「ハートスランプ二人ぼっち」の曲で入場。

絶妙な語り口で大学卒業後仕事もせず奥さんの紐みたいな生活をしてきた下積み話から始まり、ポプコンでグランプリを取り生活が大きく変わり、印税が入り東京に生活を移したものの仕事がなく3ヶ月で関西に戻り、そんな時新地で血洗いのバイトをしていたバンド時代のマネージャーからやしきたかじんさんを紹介されラジオに出るようになり、その後島田紳助さんとも出会うなど楽しい内容の話で、「俺は才能ないし、自分のことをアマチュアだと思っている。人に心を開いてもらうためには自分も素直に一生意気にやる。それしか方法を知らない」という。

予定の時間があっという間に過ぎ最後は「夢の花」。今年で70歳と思えない声量で最後まで皆さんが引き込まれたトークショーとなった。

円 広志(まだかひろし)氏 プロフィール

1978年、シンガーソングライターとして『夢の花』でポプコンで優勝し、デビュー。大ヒットとなる。『探偵! ナイトスクープ』のテーマ曲である『ハートスランプ二人ぼっち』、森昌子に楽曲提供した『越冬つばめ』は有名。関西ではテレビタレントとして活躍し、関西テレビ『よ〜いドン!』、読売テレビ『かんさい情報ネットten.』にレギュラー出演されている。その他コンサート活動などでも大活躍中。



来賓として議員や官公庁の方をはじめ、全国の科学機器協会理事長の方々にご参集いただき、70周年記念祝賀会が盛大に取り行われた。



大阪科学機器協会

創立70周年記念祝宴



(株)飯田製作所/三浦さん ブルームビルド(株)/小関さん (株)ヤマオカ/山岡さん (株)村上衡器製作所/村上さん (株)村上衡器製作所/伊賀さん 日本計器(株)/宮野さん



瑞穂化成工業(株)/武田さん 西野産業(株)/西野さん 新光電子(株)/塩見さん (株)平田製作所/平田さん 三宝化成(株)/岸本さん 大平理化学工業(株)/安藤さん
[前列]瑞穂化成工業(株)/上谷さん



アズワン(株)/山田さん ニッコー・ハンセン(株)/長谷川さん アズワン(株)/関田さん 日本製紙クレシア(株)/鹿毛さん 近江オドエアサービス(株)/上野さん 杉本商事(株)/杉本さん (株)フロンケミカル/片山さん



カノマックスアナリティカル(株)/大竹さん 伸栄紙器工業(株)/三栄さん (株)大同工業所/大桐さん (株)相互理化学硝子製作所/中村さん 瑞穂器械工業(株)/札幌さん (株)フロンケミカル/林さん (株)日本メカカルサイエンス/岩井さん (株)稲葉屋冷熱産業/稲田さん



乾杯のご発声で祝宴が始まった



(株)ダイソー/牧さん 広瀬化学薬品(株)/広瀬さん PHC(株)/美才治さん フクシマガリレイ(株)/福島さん PHC(株)/中村さん PHC(株)/藤原さん



(株)エンバイシス/沖田さん (株)三商/安田さん 安井器械(株)/安井(修)さん 安井器械(株)/安井(隆)さん ケニス(株)/西松さん (株)コクゴ/中安さん (株)コクゴ/國井さん



(株)マルエム/宮脇(和)さん (株)マルエム/小泉さん (株)平田製作所/平田さん (株)マルエム/宮脇(豊)さん 大日産業(株)/岡田さん (株)ジェイ・サイエンス関西/八木さん (株)ジェイ・サイエンス関西/久保田さん



大阪科学機器協会/百合さん (一社)日本科学機器協会/梅垣さん 大阪科学機器協会/町井さん 大阪府議会議員/久谷さん (一社)日本科学機器協会/柴田さん 大阪科学機器協会/盛谷さん



大阪科学機器協会/青井さん 日本薬科機器協会/酒井さん (一社)日本科学機器協会/長谷川さん 大阪科学機器協会/井内さん (一社)大阪医療機器協会/千種さん 大阪科学機器協会/札幌さん



(後列左から)杉本商事(株)/杉本さん 大阪科学機器協会/加藤さん 大阪科学機器協会/西松さん 大阪科学機器協会/辻さん 九州科学機器協会/高着さん (前列)東海科学機器協会/高木さん 北海道科学機器協会/横沢さん



増田理化学工業(株)/小島さん (株)山下製作所/山下さん (株)大進製作所/藤本さん (株)大船製作所/中南さん 山中化学(株)/山中さん アラム(株)/荒木さん



大阪科学機器協会/原田さん 大阪科学機器協会相談役/鳥田さん ORK II 会代表幹事/安藤さん 大阪科学機器協会名誉理事/松井さん 大阪科学機器協会監事/西野さん 大阪科学機器協会相談役/岸野さん



(株)クロマニックテクノロジーズ/長江さん 篠原電機(株)/菊池さん 篠原電機(株)/篠原さん 北浜計測(株)/清原さん 宮野医療器(株)/成田さん (株)ニチリョー/徳地さん (株)北浜製作所/中田さん



安積濾紙(株)/田中さん 安積濾紙(株)/白石さん



入江(株)/高橋さん (一社)日本科学機器協会/入江さん 大阪科学機器協会/上野さん



(株)ケムコプラス/宗末さん ジーエルサイエンス(株)/長見さん ジーエルサイエンス(株)/帆足さん 宇野(株)/菊川さん ホダカ(株)/二反田さん 京都電子工業(株)/新出さん 京都電子工業(株)/中山さん



(株)日立ハイテクフィールドイング/藤本さん (株)キシノ科学機械/岸野さん エスペック(株)/江澤さん (株)島川製作所/松岡さん エスペック(株)/乾さん (株)日立ハイテクフィールドイング/岡田さん



柴田科学(株)/北森さん フクシマガリレイ(株)/盛谷さん 柴田科学(株)/清水さん フクシマガリレイ(株)/福島さん



アドバンテック東洋(株)/松井さん 九州科学機器協会/高着さん 日本フリーザー(株)/栗田さん アドバンテック東洋(株)/高崎さん



(株)マルエム/宮脇さん 三宝化成(株)/岸本さん (株)マルエム/小泉さん



(株)服部/田島さん (株)服部/松野さん (株)コクゴ/中安さん
(株)コクゴ/國井さん



大阪科学機器協会名誉理事の松井さん。いつもお会いしても笑顔で



ジャズの生演奏が流れる中、あちこちで歓談の輪が広がる。



ジーエルサイエンス(株)/長見さん エルシーサイエンス(株)/菱川さん
(株)マルイ/圓井さん ジーエルサイエンス(株)/帆足さん (株)サカエ/
井上さん (株)サカエ/青山さん



2022年、オリックスバファローズは日本シリーズ制覇。26年ぶりの優勝を飾った。オリックス(株)は大阪科学機器協会の会員企業でもあり、この日、優勝を記念してサインボールなど寄贈いただき抽選会が行われた。プレゼンターはオリックス(株)宮さんと大阪科学機器協会の吉田さん。



見事にオリックスバファローズの優勝記念品を射止めたキコーテック(株)の玉松さん。



(株)大同工業所/大桐さん (株)サンキ精機/深谷昭三さん (株)サンキ精機/深谷昭治さん (株)テラオカ/鳥丸さん オリックス(株)/宮さん



アドバンテック東洋(株)/高崎さん 瑞穂器械工業(株)/札幌さん
アドバンテック東洋(株)/松井さん



(株)マルエム/宮脇さんと大日産業(株)の岡田さん。式典は旧交を温める良い機会にもなった。



(株)西山製作所の西本さんは2023年、同社の新代表となられた。



アズワン(株)の関田さん他、選手サインボールなどを引き当てる。



理化学業界にとってはなくてはならない実験用のガラス製品を製作する（株）平田製作所の平田さん。名刺交換するのは柴田科学（株）清水さん。



（株）日立産機システム/百合藤さん （株）精研/田原さん （株）精研/仲さん （株）精研/辻さん （株）服部/松野さん （株）服部/田島さん



大阪科学機器協会/上野さん 中四国科学機器協会/木村さん 北陸科学機器協会/前野さん 信越科学機器協会/五味さん 東北科学機器協会/和田さん / 大阪科学機器協会/吉田さん



久々の懇親会に会話も弾む



閉宴後のお見送り。この70周年の式典開催が他団体の行事開催を促したという。



祝宴の中締めは大阪独自の『大阪締め』で。そして大阪締めと言えば大阪科学機器協会理事の辻さんが音頭をとる。



（一社）日本科学機器協会会長谷川会長と大阪科学機器協会井内理事長



70年式典と祝宴を無事に終了直後の大阪科学機器協会理事のみなさんと、ORK II 会代表幹事の安藤さん、そして事務局長の松本さん。みなさん「やり切った〜」という表情をされている。この後は2023年の新年互礼会や2月開催のJASIS関西の準備に追われることになる。

ORK70周年に寄せて

変わりゆく社会を見つめ、 最善の未来を創造する



大阪科学機器協会理事長
井内 卓嗣

相互に助け合うという

我々には古くからの風習がある

感染症パンデミック、覇権国対応、気候、エネルギー・食糧問題……言い争いから、争奪へと激しさを増しており、無為に過ごせば、我々はゆでガエル状態のまま、恐竜のごとく絶滅しまうかもしれません。

今こそ、日本古来の「和をもって貴しとなす」「八百万の神様」などに象徴される日本の相互尊重、連携・助け合いといった独自の手法で、世界安定に向けた役割を積極的に果たし、更には、日本の眠れる科学技術力を結実させ、世界を豊かにすることで、存在意義を高めていこうではありませんか。

あいにく日本の研究予算・成果とも、米国・中国の背中が遠ざかっているのが現状です。科学への期待が高まる今こそ、我々は日本の研究を取り巻く課題・環境に「どう向き合い」「どう輝きを取り戻すか」を再考し、変革を志すべきと考えます。

当業界は、研究者の方々に、研究機器という「手段」を提供してきました。これからは、研究者の「目的」である「成果の加速」に足りないものは何か？へと視野を広げれば、ヒト・モノ・カネ・サービス・情報など、際限がありません。しかも、今後、研究資金はアナログ的予算から、デジタル予算へシフトが加速します。ハード・ソフト、ロボット、AI・計算科学シミュレーション・仮想空間といったことへの取組みも必須ですが、予算・人的資源は限られた状況において、研究者・業界が一緒になって、連携・共有・学習する発想が必須です。

二兎追うことで成果を加速させ

答えのない世界を創造せよ！

取組みが急がれる事項として、高度なデジタルネットワーク・物流・リサイクルといった協業が挙げられます。買わない・利用しないが過ぎると、景気に影響を及ぼしますが、レンタル・リサイクル等の共用も促進し、時間や予算に我慢を強いることなく、二兎を追うことで、研究成果の加速に結び付ける。革新的エネルギー・食糧・新素材等の新成果加速により、争奪を脱し、均衡可能な世界を目指さなくてはなりません。

その試行錯誤を重ねるのが、大学に代表される学ぶ場、企業においては、リスクリングや真面目な雑談の場です。いずれも1つの正解を記憶することではなく、答えの無い世界を創造する力です。点では無く、面の視点で俯瞰する時代でもあり、新たなニーズに見合った価値提供をしていくことが、当業界に求められる変革です。

一見隔たりのある交わり、文理融合などにより、研究・探求・倫理への取組みも加速しています。大学では「文理融化学部」「共創学部」「AI / データサイエンス学部」「人間科学部」「都市科学部」といった学部も創出されてきました。

変わりゆく社会を想像し、最善を尽くすことは、未来世代への責務です。我々にできることは研究成果の加速を最大限サポートすることであり、期待と祈りの気持ちが膨らみます。

当協会に集う企業・人が連携・融合し、社会課題解決に貢献する。必要不可欠な業界として社会的認知を高めていけるよう、今後更なる協会活動へのご理解・ご協力をお願い致します。



「葦の芽」は「葦の角」「角組む葦」「葦の錐」などといひ、『古事記』では「葦牙」と表現する。天に向かって水の中から神々が誕生する光景はダイナミックだ。

Photo / 正木輝明

この国が生まれたばかりの頃、この世界は、水に脂を浮かべたようにたよりなく、海に漂っているクラゲに似ていた。

そんななか、寒さが残る春の水辺に力強く

天を突き刺す葦のように萌え上がってくるものがあった。

『古事記』に表現される神々の誕生だ。

Profile

井内 卓嗣 (いうちたくじ)

大阪科学機器協会第12代理事長。(一般社団法人)日本科学機器協会副会長。アズワン株式会社代表取締役社長として668名の社員を率いるほか、当業界の若き牽引役でもある。

ORK70周年に寄せて

JASISの定着に向けて



大阪科学機器協会副理事長
札幌 勇二

過去10年で開催した 4回の科学機器展示会

この10年間で当協会は4回の科学機器に関する展示会に携わってきました。2013年と2016年の『サイエンスエキスポ』、2019年と2023年の『JASIS関西』です。そのうち2回の『JASIS関西』は出展社、来場者に恵まれ、高評価を得ました。

さかのぼると、当協会は全科展という名称の展示会を隔年で東京の協会と交互に開催していました。最盛期にはインテックス大阪で、3号館から6号館という建屋を3棟使うなど大変盛況でした。しかし、徐々に出展社が減少していくと東京の協会は分析機器展との合流を目指し、その結果、2010年からは（一社）日本科学機器協会と（一社）日本分析機器工業会の共催による『JASIS』が幕張で毎年開催されるようになりました。これにより全科展は終焉を迎え、協会に衝撃が走りました。その後、大阪単独で開催するも、『JASIS』が幕張で毎年開催されるので、出展社は増えず成功裡に終えることはできません。

危機感をもった当時の荒木理事長、そして井内副理事長と私は『JASIS』の大阪での開催こそが打開策と考えました。2016年には松本事務局長とともに4名で東京の分析機器工業会へ要請に行き、いろいろアプローチを重ねました。我々の熱意に折れたのか分析機器工業会も開催を決めてくれ、2019年2月にグランキューブ大阪（大阪国際会議場）で『JASIS関西』の開催を迎えます。その会場の熱気たるや、分析機器工業会の方も驚き、喜んでいました。私は会場の隅に置いてあったパイプ椅子に座ってずっと会場を眺めて

いて、「こうなってくれたら」と思い描いていた通りになった喜びを味わっていました。

協会のDNAに組み込まれている 展示会の開催と運営

協会を生物に例えるとそのDNAには展示会運営が刻まれています。これまでたくさんの理事や委員がかかわり、いろんな知恵を出し、議論を重ねてきました。委員会はいろいろな経験をしてきた委員たちがそれをもとに意見を出し合う大変見識の高いものでした。また、私も何度か幕張の『JASIS』に行っていますが、そのたびに旧知のご同業に会い、語っていました。たくさんの会員の方がこのような経験をされていると思います。

我々は『JASIS関西』を引き続き開催したいと思い、次回は2025年の大阪万博開催期間での開催を提案しています。『JASIS関西』を見た帰りに万博に行く、反対に万博の帰りに『JASIS関西』に立ち寄る。セミナー会場と展示会場をエレベーターだけで移動できる『JASIS関西』に最適のグランキューブ大阪は使えないかもしれませんが。

妄想はさておき、展示会は時代遅れのように言われますが、この2回の『JASIS関西』の盛況により協会に活気が出て、年間行事にもメリハリが出ます。交流や研修の場を設けることも大事な仕事ですが、展示会場で顔を合わせて歓談しあったり旧交を温めるのも他では代えられないものです。次はいつ開催されるかわからないということでなく、何かの決め事のもとに行われてほしいものです。



『JASIS関西』が開催される（グランキューブ大阪）の足の便の良さも多くの来場者を集めた要因である。オフィス街である梅田や淀屋橋からほど近く、京都や神戸の企業や大学関係者も来やすい。会場選定が非常に良かったという声は多くの人から聞こえてきた。

Profile

札幌 勇二（ふだば ゆうじ）

大阪科学機器協会副理事長を2000年より務める。現在6期目にある。1945（昭和22年）1月創業の瑞徳器械工業株式会社代表取締役。父の勇夫氏は大阪科学機器協会の立ち上げメンバーの一人であり、また、ご自身も同協会の下部組織であるORK II会の立ち上げメンバーである。

ORK70周年に寄せて

ORKの役割を考える

時代の流れの中で 変化する仕事の流れ

大阪科学機器協会はこの度創立70周年を迎えることができました。会員の皆様には日頃より協会の活動にご支援・ご協力をいただき感謝申し上げます。

今回、70周年を迎えるにあたり、過去の記念誌を読み返してみたところ、社名は変われども思った以上に古くから（設立当初から）ご入会いただいている会社が多いと感じました。改めて感謝申し上げます。

さて、我々の業界も時代の流れで仕事の仕方も随分変化してまいりました。昔は御用聞き営業で足繁くお客様を訪問することで商売をし、お客様に情報とモノを持って営業を行っていたのが、情報はインターネットなどで先にお客様が仕入れ、モノも宅配業者などが運ぶ時代となると従来のやり方ではなかなか成長することが難しくなります。今、よく言われているモノ売りからコト売りにシフトしていかないといけないと思います。あるいは、他業界で行われているような商売の仕方（例えば、サブスクリプションやシェアリングエコノミーサービスなど）も検討する必要があるでしょう。

ただし、人が介在しての商売はなくならないと思っています。お客様のニーズに的確にお応えするには、今まで以上に濃密で質の高いコミュニケーションが重要です。今年の2月に開催した展示会『JASIS 関西』も久々のリアル展示会として大いに賑わいました。アナログとデジタルの融合、リアルとバーチャルの融合で的確なタイミングでの情報発信と人と人とのコミュニケーションによる摺り合わせ



大阪科学機器協会副理事長
青井 和夫

により新しいテクノロジーの創造やアルゴリズムの開発などにつなげることができると思います。

日頃のコミュニケーション力を生かし 高度な技術開発へとつなげたい

大阪科学機器協会は設立当初から会員同士の交流というところには特に力を入れてきました。設立して間もない1953（昭和28）年から行っている野球大会を皮切りに謡曲、囲碁、麻雀、釣り、ゴルフ、ボウリング、ビアパーティなど、幅広く多くの会員の方々にご参加いただいています。他団体では代表者や役員などトップ同士の交流事業があるところは多いようですが、一般社員の交流事業をこのようにたくさんやっているところはそれほどないと思います。こういった場での会員同士のコミュニケーションが非常に重要でここから新しい発想が生まれるのではないかと考えています。

現在は高度で複雑な時代になっていますので新技術の開発や問題の解決など1社では難しいこともたくさんあります。昔から行われていた産・官・学の連携にとどまらず、大手企業でもオープンラボなどで様々な知識の融合ということに取り組みられています。大阪科学機器協会も様々な強みをお持ちの様々な企業が集まっていますので会員同士での連携や協力はし易い環境にあると思います。協会としてはいろいろな機会を提供することが一つの役割ではないかと考えています。今後とも業界の発展のために尽力してまいりますので会員各社の皆様のご協力をお願いしたいと思います。



大阪府の人口は令和5年3月1日現在、8,771,429人。33市からなり、府庁所在地は大阪市である。近畿経済の中心地であるが、2019年度版「エコノミスト・インテリジェンス・ユニット」によればウィーン、メルボルン、シドニーに次いで「最も住みやすい都市」にランキングされた。2025年には、毎年、ソフトボール大会が行われていた舞洲で万博の開催が予定されている。

Profile

青井 和夫 (あおい かずお)

大阪科学機器協会副理事長に2020年に就任。
株式会社北浜製作所代表取締役社長。同社創業者の青井捨三氏は日本理化学機器商工会近畿支部大阪部会の立ち上げメンバーであり、2代目会長を務めた。
青井氏の祖父に当たる。

ORK70周年寄せて

ORKのPurpose (パーパス)を考える



大阪科学機器協会相談役
島田 種雄

ORKの存在理由って 何なのだろう?!

ここ数年、Purpose (パーパス) という言葉をよく耳にするようになりました。一般的には目的、意図、目標などと訳される英単語です。ビジネスでは「パーパスマネジメント」として注目されており、組織や企業の存在理由や存在意義を明確にしてどのような貢献をするのかをパーパスとして掲げ、そのパーパスを軸に経営を行って行く手法だと言われています。平たく言えば、今流行りの企業経営手法と言うことになりますが、マーケティングがソーシャル・マーケティング (非営利組織によるマーケティング) に進展していったように、パーパスも非営利組織のマネジメント手法として活用される可能性もあるので、ORKのパーパスについて考えたいと思います。

ORKのホームページにORKの目的が掲げられています。

大阪科学機器協会は最新の科学技術革新の変化を見極め、情報やネットワークによる支援と、会員企業の相互の親睦連携を図り、業界の発展と我が国の科学振興に寄付することを目的としております。

これは、ORKが「なんのために存在し」、「なんのために事業を行うのか」と言う存在意義を示しており、まさにORKのパーパスです。今まで何となく見ていましたが、今回ORKの目的を再確認し、既にパーパスが掲げられていた事に驚くと共に、元理事として今頃何をと反省もしております。このパーパスをORKの事業 (展示会実行委員会・広報委員会・研修会委員会・友好団体企画委員会・福利厚生委員会・ORK II会等の委員会等) に落とし込み展開してきたのがORKの歴史だと思います。しかし、

VUCAの時代 (将来の予測が難しい時代) が到来していると言われる現在、従来と同じ手法で掲げているパーパスを実現するのは困難です。(VUCAとはV:Volatility 変動性、U:Uncertainty 不確実性、C:Complexity 複雑性、A:Ambiguity 曖昧性)。ORK設立からしばらくの時期は、「目的としてのパーパス」と「行動としてのパーパス」が一致していたのではないかと思います。しかし70年も経過すると、「目的としてのパーパス」と「行動としてのパーパス」にギャップが生じ、各行事を継続することが目的になってしまっている可能性があります。ORKが掲げている目的が、現在の活動で達成できるのかを問い直す必要があるのではないのでしょうか。

ORKのステークホルダーは 他ならぬ会員企業と所属する人々です

ORKのステークホルダーは誰か? 最も重要なのは会員企業です。各会員企業の規模や業種の違いはあれ、「Sustainability (サステナビリティ)」「Digital (デジタル)」「Global (グローバル)」が昨今の共通する大きなテーマとして挙げられます。

これらのテーマに対し、具体的に会員企業に対してどのような支援ができるのかを検討し、具体的な活動に移して行く必要が求められているのではないかと思います。そのためには多様な会員企業 (外資系企業、間接的に科学機器に係っている企業等) の獲得も必要ではないのでしょうか。

2025年大阪・関西万博に向けて、ORKとして何か新しい試みを実現されていることを期待いたします。

以上思いつくまま好き勝手に書かせて頂きました。ORKの益々の発展を願っています。



大阪産業創造館
2000年に中小企業支援施設として誕生。同館は豊かな公開空を備え、ファザードには商売の街らしく七福神の宝船が天を目指している。

Profile

島田 種雄 (しまだ たねお)

大阪科学機器協会副理事長をへて相談役。
エスベック株式会社常務取締役から、この春に退任。

70周年誌版:

コロナを超えて



2022年12月、弊誌は1通のアンケートをこの10年間に『ORKマン参上』にご登場願ったみなさんに出していた。その内容は以下のようなものである。

- この10年間で最も思い出深い、あるいは衝撃を受けた出来事は何でしたか。
- 上の出来事に対して独自の対処法などありましたら教えてください。
- 2020年1月に始まったコロナ禍はみるみる世界を席卷し、健康だけではなく、経済や社会に多大な影響を与えました。貴社の様子はどうでしたか。コロナ禍で果敢に新製品の開発や体制作りにも挑んだ企業もあります。貴社の対応を具体的に教えてください。
- 今後の危機に備え、どのような企業作りを目指されているか教えてください。また、理化学機器業界に組みする一員として、今後を描くビジョンを教えてください。

弊誌では「コロナを超えて」と題して2020年の542号から544号、545号、548号、549号、551号まで、コロナとどう向き合ってきたかを多くの方に伺い、繰り返し伝えてきた。業界誌としての限界はあるにせよ、同じテーマで集う仲間だからこそ、今後に伝えるべきものが残せるのではないかと考えたからである。今回は15社15名の方からアンケートへのご返送をいただいた。80周年を担う若い方へ残したい70周年からのメッセージである。

コロナを超えて 01



島津サイエンス西日本株式会社・代表取締役社長の河野文彦氏。同社にいられて3ヵ月後に取材は行われたが、コロナがどのような収束をするかも見えない中、「これは働き方を見直すチャンスかもしれない」と言われた河野さんの言葉が印象に残っている。

働き方が大きく変わった10年。幸か不幸かコロナがそこに拍車をかけた

この10年で最も思い出深いのは、第一に、2019年4月1日より働き方改革関連法が施行され、「長時間労働の是正」「正規・非正規間の格差解消」「多様で柔軟な働き方の実現」という3つの柱を掲

島津サイエンス西日本株式会社の河野文彦氏が登場してくださったのは2020年の542号。この号で初めて「コロナ禍をどう乗り切るか」というテーマで理事の方々から寄稿いただき特集が組まれた。

これからの働き方を考える コロナはいいチャンスになった

げて、実行されたこと。

第二に、働き方改革関連法に合わせるかの如く、世界中がコロナ禍に見舞われたことです。

前職(島津製作所)で拠点長を務めていた2016年頃から、日常業務の基盤をつくるのが重要と思い「ワークスタイル改革」に取り組んできました。その延長でつくば支店のオフィス改革にも着手しました。当社に赴任してからは、(コロナ禍に見舞われたこともあって)過去の経験が少しは生かせたと思います。

すさまじい勢いで進む科学技術。それに見合うワークスタイルを今後も培っていく

2020年4月に本社より出向した時の

当社は、殆どコロナ対策を講じていなかったことに驚きました。これは逆の見方をすれば当社が常に掲げている「お客様に一番近い営業」の意識が強いことなのだと感じましたが、「変わる」ことに抵抗もあったようです。そこから、フレックス勤務や在宅勤務の導入、ICTの活用を始めました。

私達が日々接している科学技術は凄まじいスピードで進んでいます。しかしながら、当社の「ワークスタイル改革」は、道半ばです。これからは、生産性を向上する為にも、社員達が思う存分生き生きと働きたいと思えるワークスタイルも培っていきます。

島津サイエンス西日本株式会社
代表取締役社長 河野 文彦



WEB会議の利用率を上げるにはマイクやカメラ、モニターなど、ICT機器の品質と操作性が大事だとお話しされていた河野さんは、企画管理本部のメンバーと実際に機器を使いながら打ち合わせをされていた。仕事を合理的に進めるだけでなく、社員が安全に生き生き働くということが、常に心にあったようだ。

河野 文彦氏(こうのふみひこ)
(株)島津製作所から島津グループの一つである島津サイエンス西日本(株)の代表取締役社長として河野さんが赴任されたのは2020年4月1日。コロナ禍で7日に緊急事態宣言が発令される直前のことだった。(株)島津製作所ではつくば支店長時代には廃炉プロジェクトを立ち上げ、また初のオフィス改革をつくば支店などで手掛けている。

コロナを超えて 02



「社員が幸せと感じていない会社に未来はありませんよ」と言い放った中村さんの言葉に「ああ、こういう上司の下で働く人は幸せだろうな」と思った。社員の頑張る力を引き出してもらえる。

健康を願う全ての人々のために
社会貢献をはかる

10年間で一番衝撃を受けたのは、「COVID-19」でした。確かに私たちの生活スタイルを激変させましたが、しかし、人はその渦中にあっても柔軟に、迅速に、変革し、成長し続けています。

我々(の独自の対処法があるとしたら)それぞれが、相手を思いやり、大事な存在を守るために行動し、チームワークと

PHC株式会社バイオメディカ事業部近畿営業所の中村泰啓氏にご登場いただいたのは猛威を振るう「COVID-19」に対してワクチン接種が広がり、そのワクチン保冷庫に同社の超低温冷凍庫が全世界への供給され始めた2022年の548号でした。

健康を願う全世界の全ての人々に 私たちの技術で貢献したい。

イノベーションで健康を願うすべての人々ために、会社を通じて社会貢献ができたことである。

世界へと翼を広げて
持続可能な製品を届ける

弊社では、「コロナmRNAワクチン」を保存する超低温冷凍庫を全世界に供給することができたことをはじめ、SDGs環境にやさしいノンフロンの商品や消費電力が以前よりはるかに少なくして済む省エネ商品を販売することができ、さらにそうした製品を通して社会への貢献を感じることができたのはとても幸せなことでした。

私たちが目標として常に掲げているのは次の事項です。

- 顧客ファースト、顧客価値の最大化を目標に推進。
- 社員の労働環境にも配慮し、健康で安全な環境のなかで安心して能力を発揮できる企業。
- 今後を描くビジョンは、バイオメディカ事業部としてモダリティの進化に貢献すること。

中村 泰啓氏(なかむらやすひる)
PHC(株)バイオメディカ事業部近畿営業所所長
同社の超低温フリーザーがコロナワクチンを守る保冷庫として世界中に供給されるというニュースを聞いて、暗い闇の中に一条の光が差した気がしました。同社では健康に関する機器やシステムを提供している。中村さんご自身も大学時代からの筋金入りサーファーで、人一倍自分の健康も周りの人の健康も気を遣っている。因みにWHOが提唱する心の健康とは「前向きであること、好奇心を持つこと、思いやりがあること」だそうです。



【スペック】
DU703-VHS1
①ノンフロン自然冷凍で省エネ(フロン排出抑制法 対象外)
②新型10.1インチ 大型パネル採用
③向上したセキュリティ対策を装備

PHC株式会社
バイオメディカ事業部 近畿営業所所長 中村 泰啓

コロナを超えて 03

株式会社 村上衡器製作所の村上昇氏が登場されたのは2020年の544号。このときはコロナ禍に対してORK II会のメンバーの方々からメッセージをいただいた。村上さんもORK II会のメンバーのお一人である。

新たな視点への理解を 精妙で透徹した目で深める

株式会社 村上衡器製作所
代表取締役 村上 昇



曾祖父の初代村上佐助氏がなぜ京都で天秤の仕事を学ぼうと思っただろうか、当時そうした技術を学ぶことにはどのような意味があったのか、詳しく調べてみたいと思うようになった。そこからまた、新しい発見があるのではないかと語る。



高精度電子天秤を校正するための非常に軽いサブミリグラム分銅。素材はチタン。校正に用いる際、0.1mgの分銅に対して誤差の許容範囲は1000分の3mg以下ということだ。

いつ何が起るかわからない。

東日本大震災 発生の3日前に父親から代表取締役を継承して、ちょうど12年が経ちました。社長就任直後に「いつ何時 何が起るかわからない」事を見せつけられ、それを肝に銘じて会社経営に取り組んできたつもりです。

直近の10年間で最も衝撃的な出来事は、2014年の48歳 現役従業員の突然死です。会社休日での家族が外出中の家内での不慮の出来事であり、死因不明でした。葬儀の席で会社代表として遺族の方々に掛ける言葉が見つからず、弊社での職歴30年のベテラン社員に対し非礼の極みでした。自分の器の小ささを知ると同時に、「いつ何時……」は全社員が常に意識すべき心構えだと痛感しました。

蓄積された技能を伝授する 仕組み作りを工夫する

ものづくり現場の職人技は勿論のこと、営業や設計の業務も究極的には属人的な経験と技能に支えられています。

BCPや人材育成の観点からも、通常業務をしながら上司や先輩の職歴内に蓄積されている技能をスムーズに伝授できる仕掛け・仕組み作りで創意工夫を凝らしてきました。例えば、賞与査定票(5段階評価)の各項目の「5」は、会社が理想とする社員の姿として「他人に教育・指導できるレベルで理解している」と定義し、事例付きで行動規範を明示しています。上司による査定と人材教育との距離を縮める事がねらいです。

また、10年前から私と全従業員との個人面談も実施しており、査定評価のフィードバックの一端としています。他人に教える事が自分の理解の深化にも直結する事を理解してもらい、会社の仕組みとして定着させたいです。

コロナ禍でもメーカーは リアル出社を維持

弊社は敷地内に工場を持つメーカーであるため、コロナ禍の最初期に「リモートワーク対応はできない」事を全社員に宣言し、通勤形態を工夫しながら社長以下全員のリアル出社を維持しました。理化学機器という業種業界に守られて

いるお陰で、業績への直接的な影響は最小限で今日まで推移しています。

その中で、コロナ前から進めていた社内業務の電子化(販売管理や社内伝達)の強化、営業業務のリモート対応の推進、JIS規格内で最高精度の質量標準分銅の自社製造への挑戦を継続できました。リアル展示会への出展ができなかったため、その費用を映像制作会社による会社紹介動画の制作に充てたりもしました。行動制限の多い期間でしたが、逆にそれによって浮いた時間や経費を有効に活用し、いかにコロナ後への種蒔きができるかを思案していた期間でもありました。

無垢で無邪気な視点と 経験豊かな視点の融合

外部環境の変化の激しい時代において、個人としても企業としてもどれだけ柔軟に変化対応できるかが組織の発展に大きく関係すると確信しています。貴重な「経験知」であっても、ともすれば「前例踏襲・思考停止」になりかねません。新入社員の様々無垢で無邪気な視点とベテラン社員の経験豊かな視点



分銅の微妙な質量を管理することが最も難しい。この作業は分銅の質量の誤差を限りなくゼロに近づける作業。ダイヤモンドなどで削るほか、馬の毛を使った柔らかい布で拭いてゼロに近づけていく。

が、ひとりの社員の中で、もしくはひとつの組織の中で相乗効果を伴って共生できている様な個人や企業が今後の危機の中でも悠々と勝ち残っていけると思います。

現在48歳の私は健康診断では両眼とも裸眼で1.5ですが、時々老眼を感じる場面も出てきました。次世代の人が持つ新しい視点への理解が自分や業界の経験のせいで霞んでしまうことの無い

ように、経営者としての五感を10年後も研ぎ澄ませ続けていければと思います。

村上 昇氏(むらかみのぼる)

(株)村上衡器製作所代表取締役。同社は明治39年、曾祖父の初代村上佐助氏が分厘秤の製造工場を創業。明治22年に京都にあった秤座に佐助氏が技術見習いに入ったのから数えると、今年で134年になる老舗企業である。秤もデジタル化が進むが、それを校正するために開発されたのが「サブミリグラム分銅」と呼ばれるごく軽い分銅。0.5mg,0.2mg,0.1mg がセットされている。極小分銅を作る技術は世界的にも優れた技術である。

コロナを超えて 04

瑞穂化成工業株式会社の上谷雅治氏は2014年の507号で紹介させていただいた。その時言われていたのは「メーカーであることを貫くこと」、そして「常に在庫製品を確保していること」という点だ。しかしコロナ禍では受注残を抱えたという。無念だったに違いない。

想定以上の臨機応変で スピーディに対応していきたい

瑞穂化成工業株式会社
代表取締役 上谷 雅治



とにかく面倒見がいい方なので、この人の周りにはいつも人が集まっている。体のどこにも思わせるほど、エネルギーに満ちた方だ。

上谷 雅治氏(うえたにまさはる)
創業された上谷光輝氏が瑞穂の国(島根県)のご出身だったことから瑞穂化成工業の社名となった。雅治氏の社長就任は2010(平成10)年。在庫の保持と職人さんの技術を磨くことでは定評のある会社だ。より付加価値の高い製品作りを目指して、地域を挙げての取り組みが始まっている。2023年、ORK II会の代表幹事を務めることが決まった。

キャンプブームが起きました。弊社では2019年頃からライトサンド・モスグリーン色を展開しており、キャンプブームが追い風となり、発注数が大幅に増加しました。コロナ以前とは全く異なった商品群の増加で製造工程にも大きく影響し、改めて環境の変化への対応力が必要だと感じました。

お客様と接する・ 現場を見ていただける喜び

弊社のような容器メーカーでは、社内・社外含め商品の現物確認が必要となります。感染拡大防止で直接の商談が難しくなり、商品を見ていただきながらのご提案や製造現場を直接ご覧いただくことも難しい状況でした。

コロナ禍の終息を願い、カタログ製作や製造機械の導入等を実施したことで、今後、販売促進・製造の効率化に努めて参ります。これからの10年の

間にも、感染ウイルスや災害等のリスクは十分にあると感じております。

何か起きた時に臨機応変にスピーディに対応ができ、皆様のお役に立てる企業で在りたいと思っております。



ポリエチレン容器をベースに追加加工が可能な。継手・ソケット・ニップル等を樹脂溶接で取付



扁平缶スリット容器は色付き容器で、遮光性を持ちながら液体の残量が見えます。

環境変化に対応すること

2020年から約3年間で世界的にも大きく環境が変わり、社内でも環境変化に対応するべく様々な方法を模索した期間でした。特に環境の変化を感じたのは、今までと違った商品群の発注数が増加したことです。

初年度については、受注残が発生するほどアルコールを入れる容器が増加、しばらく経つと、感染リスク軽減の為、屋外の趣味・イベントに注目が集まり



航空運賃は嵩で決まるので、大きなモノは国内で作る方が良いとされてきた。ソフトクリームのお店に置かれるコーンなどもその代表格。同社の代表的な製品だ。

"MOOVING ONE"で 新たな100年へ

杉本商事株式会社
杉本 利夫



今年3月に杉本商事株式会社を勇退され、現在はご夫婦で北海道の富良野に移り住み第二の人生を楽しまれている。

皆様と信頼関係を培った この100年

企業は創立から30年も過ぎると、半分も生き残れないとの説もあるなかで当社は2021（令和3）年2月に100周年を迎えることができました。

当社が大きな節目である100年目を迎えられたことは、創業期から現在に至るまでの幾多の社員、諸先輩方のご努力とご苦勞があったことです。また、何よりも当社を支えてくださった得意先様や仕入先様あったのことに感謝を申し上げます。

当社100年の歴史は、日本が近代化し発展を遂げた時期と重なります。当然のことながら、時代とともに得意先や仕入先の皆様も変化してきましたが、現在では900社以上およそ100万点の商品を取り扱う商社へ成長することができました。

当社が日本経済の発展にいささかなりとも貢献できたことは、多くの得意先や仕入先の皆様、ステークホルダーの皆様のご支援とお力添えがあったことです。皆様と揺るぎない信頼関係を築き、これを継続してきた結果が100年につながったと考えています。

創業者への思い

創業者である杉本四郎は、福井県の山村に生まれました。幼くして大阪へ出て丁稚奉公をし、裸一貫で事業を興すと大正から昭和へ続く激動の時代を必死に駆け抜けました。小さな個人商店から会社組織へと事業を広げる過程では、資金繰りの困難から倒産の一手手前に陥った時期もあったと聞いています。

事業を軌道に乗せるまでには、想像できない苦勞があったと思います。高い壁を乗り越えてきた創業者の経験は、「商品売より 誠意を売れ」の言葉となり、社是として当社に根付いています。

長い間事業を継続できた理由としての一つに、人材育成があります。当社は新卒採用を基本とし、営業力や商品知識

等の各種研修を通じて社員を育てています。しかし、こうした研修以上に、先輩社員が後輩社員へ知識や経験を伝承するという社風が当社を築いてきたと思っています。

企業風土や得意先や仕入先の皆様との関係、成功体験や失敗談までも先輩が後輩に伝え聞かせ、幾世代にもわたり伝承の形でリレーされる。このような経験の継承こそ、当事業を継続させてきた原動力です。

当社は昭和の時代まで、会社で社員の住む所や食事を提供していました。営業所は社員寮を兼ねていましたし、本社でも昼食のまかないを長く続けていました。こうしたスタイルは、住や食の分野が十分でなかった時代から、工具商全般で行われていた「伝統」でもあったわけですが、家族的な雰囲気になかで共に生活することで、先輩から後輩へと当社の社風が伝承され、受け継がれてきた側面もあると思います。

経営的な観点から事業が継続した要因を言えば、本業に徹してきたことです。創業者を含め歴代の経営者は、時代の変化に応じて新しい商売の方法や組織、取扱商品などにチャレンジしてきました。しかし、それは機械工具商社という枠組みの中であって、例えば食糧難の時代に食品を扱う、金融業や不動産業へ進出するといった展開はしませんでした。

卸売業に徹して経営の軸足をずらさず培った経験を脈々と伝承していく。その積み重ねが当社の現在です。

社は事業と社会における指針

「誠意」は、商いにあったの姿勢を表す言葉です。ただし、この言葉の解釈は一つだけでなく、社員一人ひとりの経験を通じて異なると思います。共通することは「商売を通じて得意先や仕入先に喜んでいただきたい」「得意先や仕入先を喜ばそう」という思いであり、それを成功させた経験です。

若い頃は得意先や仕入先の皆様のこ

とを一生懸命に考えること、それが誠意だと思っていました。しかし次第に、考えるだけでなく皆様の課題に答え、しっかりと結果を出すことで喜んでいただけるのだと思い至り、これが誠意だと思うようになりました。

もう少し広い意味から「誠意」を捉えようと、社会の課題に向き合う際の指針でもあると思います。私たち杉本商事をはじめ、大阪商人には「三方よし」の精神が伝わってきましたが、「誠意」とは自分にも相手にも社会にも良い商いをする上での指針となるものと言えます。現代風に解釈すれば、環境問題やガバナンス、社会貢献、SDGs……、こうしたさまざまな社会の課題に向き合う中心軸に誠意を据えることができれば、新たな展開が開けるのではないかと期待しています。

あらためて当社100年の歴史を振り返ると、3つの時代があったと思います。創業者はパイオニアとして種を蒔き、当社の土台を築きました。第2代社長第3代社長が創業者の蒔いた種を育てて成長させ、土台を企業組織としてまとめ上げました。そして現社長の時代には、会社が持続的な発展を遂げるために、言わば品種改良を施しつつ組織や営業の仕組みを変えていったわけです。

企業の使命とは、存続し成長することであり、成長とは結果を出すことです。どのような時代であろうとも、この命題は変わりません。

第3次中期経営計画に込めた意図

第3次中期経営計画を2021年6月に策定し、公表しました。この中計は

「MOOVING ONE」と名付け、次の200周年に向けたスタートの意味を込めています。激変する時代を背景に、IT分野への投資、人材育成、環境問題への取り組みを新たに加え、より進化した成長を果たす礎を築くことをめざしています。

成長を意識することは、企業としての存在意義の表明です。従業員満足度(ES)向上をベースに、販売領域と事業領域を拡大し、得意先様、仕入先様の満足度(CS)を高め、総合的な企業価値の向上に取り組む所存です。

未来へのビジョンと決意

企業には、「変えてはいけないこと」と「変えていかなくはいけないこと」の両方があります。

当社の場合、変えてはいけないことと

は、経営の軸足をずらさないこと、すなわち本業に徹し、堅実経営に徹することです。

変えていくことは、経済・社会の変化に俊敏に対応できる営業手法であり、組織づくりです。目前には、国内のみならず地球規模の課題が山積しており、多様な課題に迅速、柔軟に対応することが一層必要とされています。こうした課題解決にあたって、皆様から求められる企業であり続けたいと願っています。

一方で、200年企業への道のりを展望すると、杉本商事はひと皮もふた皮も脱皮しないと持続的成長は難しいとも感じています。スローガニックに言えば、「提案型商社からエンジニア商社へ」と飛躍することが必要になると思います。エンジニア商社とは、社員たちがエンジニア

レベルの高度な専門性を備えた商社という意味です。そのためには、知識・スキルに秀でた人材確保や専門的な資格取得の推進が必要にもなるでしょう。

この100周年を新たなスタートとして、これからも産業界の発展に寄与できる企業として、皆様の期待に応えられる継続的な成長を果たしていきたいと考えています。

杉本 利夫氏（すぎもととしお）
杉本利夫氏は2023年3月を以て杉本商事株式会社を退職された。1921（大正10）年2月3日創業の同社は2回目の東京オリンピックの年に創業100周年を迎えられたが、今回、杉本氏にご寄稿くださったのは「企業が100年続く背景にはどのような理念や施策があったのか」という私たちに置き手紙である。人生100年と言われる時代において企業寿命は今、短くなっているとも言われる。そのような中で、杉本氏のご寄稿はこれからの私たちに大変示唆に富むものである。

正確な情報を掴み、即時に 反応する力が必要だと再認識!!

宮野医療器株式会社
代表取締役社長 宮野 哲



取材当時マラソンを始めて5年目と言っていたが、あれから7年。今も走り続けているそうだ。

自身の社長業をたどる 10年でした。

私は2013年5月に社長に就任しました。そういう意味でこの10年間は私の社長経験と重なります。

私自身が成長できているのかどうかは良く分かりませんが、この10年間で会社は拠点も社員もグループ企業も増えました。

「衝撃を与えた出来事は」と聞かれると、窮地に陥った出来事を思い出してしまいます。謝罪や弁明に行った事件等が頭をよぎりますが、ここでは言えません(笑)。

10年を振り返って良かった(ホッとしている)ことは業績が伸びていることです。私の力ではなく既にOBになった方々を含め社員が頑張ってくれたお陰だと思っています。

前述のように背筋の凍るような出来事が何度かありましたが、その都度なんとか乗り越えることができました。手前味噌ですが、弊社の凄ところは窮地に陥ったときの「踏ん張り力」だと思って

います。さらに社員の奮闘以外の要因として、長年築き上げてきた得意先との信頼関係に助けられたところが大きいと思います。感謝感謝です。

ピンチはチャンス！ 身を以て知ったコロナ禍

（最後にコロナについては）弊社には理化学機器事業だけでなく、医療機器事業・介護事業もあります。特に、医療機器事業においては医療機関が主たる得意先になります。コロナ禍においても医療機関が止まることは無いですし、むしろコロナ患者を受け入れていたりします。弊社は専門商社なので、日々の納品業務があり、テレワークは実施できませんでした。弊社には納品業務だけでなく、医療機関内に常駐して物品管理を請け負うような業務(SPD)もありますが、皆、使命感を持って業務に取り組んでくれました。

マスク・手袋といったPPE(個人用防護具)が枯渇するような状況もありましたが、海外からの直接調達や通常以外の仕入れルートの開拓に取り組みしました(失

敗もありました…)。また、社内的には欠員が出た場合のフォロー体制の構築にも取り組みました。今後も今回のような事態が来ないとも限りませんが、その際、どうやって事業を継続させるかという視点も重要ですが、「ピンチはチャンスでもあり」、ビジネスチャンスも多々あったと思います。正確な情報をいかに早く掴むことができるか、そして即時に反応できるかということが大事だということを実践できる企業を目指します。

宮野 哲氏（みやのさとし）
1946（昭和21）年、医療機器を扱う個人商店として祖父、尚氏が神戸にて創業。1948（昭和23）年、改組して宮野医療機（株）設立。医療機器と理化学機器の2本柱で営業を展開する。また医療施設開業のアドバイスや介護用品などの支援事業も行っている。

株式会社大同工業所の現会長、大桐春一氏が登場されたのは2015年の511号。メーカーとしての矜持を我々に示してください。その後、当時取締役だった仲介氏が代表取締役就任。技術の大同工業所は軽快な走り続ける。

「製品で勝負するメーカーは技術と人材に投資せよ」という父の考え方が結実する。しかし、挑戦は果てなく続く。

父、大桐春一氏
旭日双光章を受章

この10年間で最も思い出深い出来事としては、父の叙勲です。令和元年春の叙勲で、父、大桐春一が中堅・中小企業評価叙勲(技術的優位性保有企業叙勲)として、旭日双光章を受章しました。2018年夏に近畿経済産業局様より、「大桐社長(当時)を中小企業評価叙勲の推薦をしてもよろしいでしょうか」とお電話をいただきました。お断りする理由もありませんし、叙勲は父の夢でもありましたので、「お願いします」と即答しました。あまりにもあっさりとした回答に不安を感じられたのか、「叙勲が決まるまで、申請書類などご負担をかけることになりましたがよろしいでしょうか」と念押しがありました。事の重大性を理解していなかった私は「ええ、頑張りますよ」と軽くお答えしてしまいました。情報公開社会とは便利なもので、中小企業評価叙勲について調べてみますと、経済産業省の『企業経営者等への栄典授与について』と検討資料が公開されていました。春秋と年2回の叙勲がありますが、1回あたりの受章者が2~3名であることを理解しました。あまりにも簡単に「頑張りますよ」をお答えしてしまいましたので、近畿経済産業局の担当者に連絡し、「ご推薦いただいているのはキラリ叙勲でしょうか？」と恐る恐る確認しました。ご回答は「はい」。安請け合いをしてしまったと悔やむと共に重大性を理解し、「頑張ります」とお答えしました。

上述の『企業経営者等への栄典授与について』に記載の通り、経済産業省内で中堅・中小企業叙勲に対して、「評価の対象にできる企業経営者は極めて限定され、受章者数が総じて低調に推移している」という課題があることが分かりました。また、「独自技術の具体的説明と第三者からの評価」「企業情報の開示」、「推薦に係る関係書類の事務負担」など

が推薦に係る困難性として挙げられていました。裏を返せば、経済産業省は大臣表彰を受けた中小企業経営者からの受章者を増やしたい、挙げられた「困難性」を解決すれば叙勲の可能性が高くなると考えました。2018年に経済産業大臣表彰である『はばたく中小企業・小規模事業者300社』に選出されていたので、同資料に記載の条件は満たしていました。あとは書類をどのようにそろえるかという問題に絞られました。

功績調書の作成を
密かに開始

あまり授章が確定していない状況で、父に叙勲のお話をするのも、ぬか喜びをさせてしまうので、功績調書などの記載については、父の若かった頃のお話として、本人の武勇伝を話半分に聞きつつ、会社の資料で裏を取るという作業が続きました。また、客観的な評価として「過去の取材事例」も求められましたが、メディアの取材が苦手な父には、あまり取材事例がなく、資料の提出に困りました。「業界紙による特集記事……」と悩んだ挙句、大阪科学機器協会誌『ORK』の2015年春号のコピーを提出させていただきました。大阪の「科学機器」業界の機関誌で、オークマンの特集として表紙を飾らしていただいていた。「提出できるものありません」ですと、書類不備となってしまいますので、提出可能な『業界紙の特集記事』を提出させていただきました(笑)。

叙勲の可能性を
父以上に喜んだのは母

経済産業省内部での審査を終え、内閣府賞勲局での審査が進んだ段階で、父に叙勲を受けられる可能性があることを伝えました。事の意外さに呆気にとられることを「狐につままれる」と言いま

株式会社大同工業所
代表取締役 大桐 伸介



2020(令和2)年、代表取締役就任。



大桐春一会長
「メーカーは人と技術への投資を怠ってはいけない」と言う考え方は一貫しており、常に新技術の開発を怠るなどと言いつつ、こうした考え方が東大阪を支え、日本の技術を支えている。



本質安全防爆バリア



絶縁型防爆バリアの安全試験を行う装置を社内設置



爆発性雰囲気の中で使用しても、装置が故障していても、爆発しないのが本質安全防爆製品。そうした装置のみに付与されるマーク。

すが、普段動じることのない父が、「呆気にとられる」表情をしたことが印象的でした。むしろ苦楽を共にしてきた母の

方が大喜びだったかもしれません。私は令和2年4月より代替わりし、代表取締役就任に就任し、私個人としても、父に有終の美を飾らせる(代替わりできる)よい機会になりました。

理化学機器業界は、科学技術の発展を支える業界であり、我々の製造販売する科学機器の質の向上が我が国の技術革新と産業発展に貢献しています。革新的な技術、ニッチな技術をもつ会員企業の経営者が、技術的優位性保有企業叙勲(キラリ叙勲)を受章されることは、業界の発展、活性化につながると思います。開発した技術の特許申請はもとよ

り、時には業界誌の取材を受け、客観的な評価を得ておくことは重要です。最終的には、行政処分を受けていないことなど懲罰履歴の確認がありますので、経営者の皆さんは、くれぐれも速度違反にご注意いただき、安全運転を心掛けていただければと思います。

大桐 伸介氏(おおぎりしんすけ)
(株)大同工業所代表取締役。同社は1945(昭和20)年、祖父の代に創業。父、春一氏が業務用冷凍・冷蔵庫、理化学用・医薬品用保冷庫などを扱う中で、1997(平成9)年、厚生労働省産業安全技術協会検定合格を受け、防爆冷凍冷蔵庫の製造を開始。防爆受託試験として試験サービスの提供も行っている。

大阪ケミカル株式会社の吉田拓代表取締役は2020年に当協会理事の一員になってからは広報委員会の副委員長を務め、今回の70年誌では編集委員も務めている。

バイオテクノロジーとデジタルテクノロジー。
このふたつが融合し、めまぐるしい進化を遂げる10年

大阪ケミカル株式会社
代表取締役社長 吉田 拓

色んな出来事が
流れていった10年

私は今年でちょうど50歳となります。ということは、この10年間となりますと私の40代の丸々ということになり、自分自身の中では社長就任が一番の出来事なのですが、その間に色々な事が起こり、そして忘れられていった事もたくさんあります。

その中でも劇的に進歩を遂げているなど思ったのが、IPSを代表とするバイオテクノロジー分野とiPadやiPhoneなどのデジタルテクノロジーの普及ではないでしょうか。そしてこの10年で最大の出来事といえばCovid-19パンデミックになると思うのですが、ここで注目しているのは各製薬会社が開発したコロナワクチンです。それこそ、その両方の分野の劇的な進歩があったお陰で約1年弱という前例のない極端に短い期間でワクチンが開発され、人へと接種されました。

10年後、スムーズに
次世代へバトンタッチしたい。

その良し悪しはさておき、やはりこれ

からの10年もこの2つの分野の発展、そして融合が牽引していくものだと思っております。そしてその研究、開発の中で我々の業界も大いにに関わり、携わっていかねばなりません。これらの進歩に遅れを取ることなく、我々も進歩し共に歩んでいかなければならないのではないのでしょうか。

10年後、私は60代に突入しています。次の世代にバトンを繋ぐことを考えていることでしょうか。それがどのような形であれスムーズにいくことを願っております。



日本のメーカーと共同開発した自社ブランド商品。ドライアイスを使った冷凍粉碎やディスボ容器が特徴。



海外のメーカーと共同開発した自社ブランド製品。とにかく短時間で微粉砕出来るのが特徴。



2015年に現会長の健彌氏より社長を引き継ぎ、バイタリティーにあふれ趣味も幅広い。



ファイザー社 Covid-19 用ワクチン専用のシリンドリッジとして、弊社のディスボサリンドリッジが選ばれました。

吉田 拓氏(よしだ たく)
大阪ケミカル(株)代表取締役社長
1976(昭和51)年、欧米の先進分析機器や周辺部品類の直輸入を目的に大阪市大正区に創立。米国のサーモプラスチック社、リアイランスグラス社、オハイオパレー社、ポリサイエンス社、オスター社、ハミルトンビーチ社、ワリング社、ケビー社等と販売契約を結び、ラボ用粉碎機、ブレンダー、オートサンブラー等の輸入販売を行う。テスコム電器と共同開発した製品の販売も開始した。

一人ひとりが考え行動する社風を育てる。
それ以上に強固で創造的な戦略はない

株式会社エーディエフ
代表取締役 島本 敏



JASIS関西で自ら展示ブースに立って説明をする島本さん。この展示会では内部循環式クリーンベンチを紹介されていた。病院内でも活躍する「小型のクリーンルームです」と言われていた。

父の志を引き継ぎ
そして、新たな自分の夢を
探すための10年

この10年で間違いなく大きな衝撃として挙げるのは、創業者である父の死です。“世界をあとと言わせるモノづくりをする”というビジョンと“創意工夫”を理念とする創業者の想いとカリスマ性で成長した創業期の10年。そこから私が引継ぎ、さらに飛躍させていく時期がこの10年でした。その最中での父の死でした。

父を亡くしてからの2年はあまり記憶がありません。社員さん達も不安だったでしょう。いかに自分が依存していたか思い知らされる日々。生前「お前には欲が無い！」とよく叱られていたが、父と一緒に働ける事が私の夢の実現で、だから他に欲が出なかったのだ、自分は常に満たされていたのだ、ということに気づかされました。私にとって“新たな自分自身の夢”を探す10年だったと言えます。

未来に対して前向きに
行動する。
それだけで充分。

カリスマ性のある父を亡くしてから

は「1人で出来ることはたかが知れている」と心から思うようになり、社員さんと共に、この素晴らしい会社を更に輝かせることを誓いました。それが出来ない自分なら社長にあらず、という気概は今も変わりません。

まず社員さん1人ひとりの人生を輝かせるために、社長との垣根を取る必要があります。臆せず、自由に発言できる関係性を作るためです。手始めに毎月社員さん達の誕生日月にサシ飲みを行い、3年計画の商品開発研修(Off-JT)を行いました。自分の頭で考え、言葉にし、行動を起こしてほしいと伝え続け、失敗しても責めませんでした。それでも責任を取りたくない、行動しない社員さんも居ます。そんな時に社長として伝えたことは

「全責任を取れるのは社長だけ。全ての借金を個人補償している私が全責任は取るから、皆は思う事を思い切って行動に移してくれたらいい」

という事でした。それ以降、徐々に自ら動き始める社員さんが現れ始めます。社員さんの取るべき責任があるとするならば、それは“未来に対して前向きな気持ちで行動すること”それだけで十分であるということ、態度で示して来た10年と言えます。

コロナ禍で鼻先一つの
未来を意識したもの作りが
思わぬ成果へと結実する

2020年3月。コロナが騒がれた翌月に売上が半減しました。多角化経営をしていると自負していましたが、社員さんの目にも不安がよぎりました。緊急で行った営業会議で私が伝えたことは「売上の事は気にするな。鼻先1つほどの未来を意識して、あった方が良くと思う事を行動にうつして行こう！」ということでした。そうして社員さんたちが自ら考え実行したことは、当時、枯渇していたパーティーションを地元の区役所

に寄贈しよう、というものでした。その行いは新聞に取り上げられ、社員さんの笑顔と誇りを取り戻しました。また、地元の病院にも寄贈したことから、緊急医の先生とご縁が繋がり、『ストレッチャー用飛沫防止フード』という、コロナ禍ならではの商品が生まれ、病院と共に共同特許出願に至ります。時を同じくして、横浜市立市民病院から依頼を受けた『車椅子アイソレーター』は、横浜市と当社で共同特許出願する運びとなり、これまで取引がまったくなかった病院業界との繋がりができました。

今までに作った事の無い商品づくりにも果敢に挑戦した事で、更なる強みとなる多角化経営へと繋がりました。2021年にはワクチン接種会場のパーティーションを1万枚特需し、その年は過去最高の売上と利益を達成しました。まさに“チャンスを前髪で掴む”社員さんの行動力が功を奏しました。

今年で25期を迎える1品づくりのアルミメーカーとして、愚直に取り組む事の大切さを改めて感じさせてくれたのが、コロナという未曾有の事態だったのかもしれない。

本当に必要なものは何か。
時には削いで捨てることで
新しいものを生み出す。

前述したとおり、コロナの危機を逆手にとって特需したのは社員さんの行動力でした。

未曾有の事態に自らの判断で行動できる社風を大切にしていきたいと思えます。

コロナ禍で繋がった病院業界に新たな商品を打ち出しています。これも担当する社員さんが主体的に取組んでくれています。理化学機器業界においても、これまでの常識とは180度違う現象が起こらないとは限りません。そのような状況になった時、これまでの常識をいったん捨てて、新しい提案を打ち



ストレッチャー用飛沫防止フード

コロナの感染と隣り合わせの医療従事者を守るから発想。2020年、ストレッチャーで運ばれる患者さんを島本さんが見かけたのが開発のきっかけ。容態が悪化する患者さんを医師はストレッチャー上で気管挿管をしなくてはならない。当然、医師の作業性はよく、飛沫は防止したい。そこで、天面は透明パネル・側面は透明ビニール・換気装置つき・換気装置にはフィルターをつける事・ウイルスを外に直接排出しないように、陰圧式とする(排気はフィルターを介して行う)・カバーの着脱はできるだけ簡単に・気管挿管スペースを確保するため、ある程度の高さが必要・使わないときは折りたたんで収納できること。以上の条件をクリアして誕生した。



531号での取材の際に撮影したアルミフレームのカット加工作業風景はとても楽しそうだった。作品が出来上がるのを技術者のみなさん全員がわくわく見守っている様だった。四角の中はフレームの連結部。「OUT-IN連結方式」と言って一人でも組み立てられる。特許取得済

出せる会社にしていきたくと思います。『2018年夏号のオークマン』でもお話しましたが、それまで業界には無かった“簡易クリーンルーム”という新しいジャンルを打ち出したように、高品質だけど過剰なものではなく、お客様の使い勝手

を一番に考え“不要なものはどこか”という“捨てる勇気”が新しい常識を生むと考えます。業界にとって本当にあった方が良くと思える商品を打ち出し続け、業界に必要とされる企業が在り続ける。それが当社の目指す姿です。

島本 敏氏(しまもとさとし)
1999(平成11)年、父、島本守氏がアルミシステムメーカーを創業。3年後には代表取締役を任された島本敏氏は創業から20年目を「第二の創業期」と位置づけ、ブランディングの構築など、アルミの新しい可能性を求めて新たなスタートを切った。社名のADFはAluminum Design Factoryの頭文字から名付けられた。

地球が疲弊する今、これからの世代のために
今、何をすべきかを考えたい。

広瀬化学薬品株式会社
代表取締役社長 広瀬 亮



同社が70周年を迎えた翌年の2018(平成30)年、父亮氏が取締役会長に、亮氏は代表取締役社長に就任された。2021(令和3)年には健康経営優良法人2021にも認定された。

コロナ対策は
一通りのことはしたが
効果の程は不明

この10年を考えると、やはり新型コロナウイルスの感染拡大の影響が何よ

りも大きかった。発生当時から思えば、これほど長引くとは考えてもいなかった。身体的健康の不安はもちろん、精神的にも非常に負担がかかる日々が続く、社会や経済にもかなりの打撃を与えた。他社同様、我が社も一通りの感染対策は講じてきたが、正直、何がどのように効果があったのか、正しかったのかは見いだせなかったように感じる。

リモート会議や在宅勤務など
一気に進んだことは
今後につなげたい

ただ、リモート機能を使った会議や、在宅勤務に必要な環境整備など、今後につながる事もあったので、この経験は生かしていきたい。

予測できないことに備えることは、正直、不可能。その時々がいち早く判断を

下し、すぐに行動に移す心づもりは忘れないようにしたい。

自然環境が疲弊してきている今、理化学機器は未来の発展にますます欠かすことができない。

業界のためなどと言わず、これからの世代のためになる仕事をしていきたい。

「空想を常識に、夢を現実に変えてくれるのが化学だと思ってやってきた。そんな化学のポテンシャルを最大限に生かしながら次代の地球に貢献してゆきたいと願っている。

広瀬 亮氏(ひろせりょう)
1947(昭和22)年2月、神戸にて創業。2018(平成30)年、広瀬亮氏は代表取締役社長に就任する。ライフサイエンス、環境、予防医学を重点分野に環境の変化に迅速に対応できる企業でありたいという。さらに試業研究分野では科学技術研究の発展に、医療分野では臨床検査薬や臨床検査機器の販売を通して予防医学の向上に、また産業分野では工業薬品を通して産業の発展と環境社会作りを寄与したいという。

さらに広がる計測機器と理化学機器の分野。
10年後の未来は柔軟な人材の育成にかかっている。

日本測器株式会社
常務取締役営業本部長 石井 学



コロナ禍の中でベトナムのダナンに現地法人を設立したり、横浜や久留米・上田に営業所を開発するなど、この期間は種まきに徹した。そうした明石社長の考えを最も理解し、実行してくれるのが石井営業本部長だ。

情報のデジタル化がもたらした
社会への大きな衝撃

10年間で一番の衝撃は情報のデジタル化による進化です。携帯電話からスマホに代わり、情報伝達の方法や支払い決済、商売や宣伝等、世界的な社会変化に影響を及ぼしております。便利になり世界中の方々との距離も格段に近くなり、またそのための半導体不足の原因にもなり非常に大きな衝撃です。

そのような社会的状況の中で、弊社はデジタルの計測機器を早期から販売してまいりました。当然、開発部署、また開発に必要な計測機器メーカーとも取引が多く、ネットワークもごさいます。4G、5Gに関するデジタル機器業界にも早い段階で参入できており、分析機器やプロセス機器業界への導入提案や商材の提供を行うことで、同分野へも精通してまいりました。展示会やセミナーも積極的にを行い、商売のきっかけを提供していくことでその先の可能性に繋げていくことができました。この動きは引き続き継続して行きたいと思っております。

現場第一主義を貫く当社に
コロナ禍は大きな打撃。
そこから見直しを開始!!

弊社は商社として何事も「現場第一」と考えており、打ち合わせから納品まで営業担当がまず現場に行き、お客様と対面して様々な提案を行うこと原則としております。が、コロナ禍で在宅勤務やWEB会議、打ち合わせが増え、弊社が求める現場営業が非常に難しくなりました。またDX化が進み始め働き方改革への

対応も余儀なくされ、弊社もより柔軟な対応ができる体制を目指し、増員、役割分担・業務効率化の見直しなどの対応を加速させていきました。具体的には、営業拠点を増やし、ネットワーク強化(海外含む)、同業種顧客への同一製品の全社展開の加速、顧問の活用による若手の育成と新規顧客への参入等に力を注ぎ、地力を上げていくとともに、取引メーカー様との協業強化や展開のあり方についても密に打合せを行い、積極的かつきめ細やかなお客様対応を行っております。

最近ではSDGsや安心安全の提案、新エネルギー等の分野でも様々な提案ができるようになって来ました。プロジェクトチームも立ち上げ、益々社会に貢献する計測機器を提案したいと思っております。

基本はやはり現場第一主義。
柔軟に対応できる
人材育成に力を注ぐ

現場第一主義は今後も変わることはありません。様々な条件にも柔軟に適應できる営業マンの育成や企業と企業を繋げる役目を意識し、安心・安全とサービスの提案が組織としてできる企業創りに邁進してまいります。

弊社が理化学機器に携わるケースも今後増えると確信しております。弊社の納入先はそれぞれ多様なお客様に広がっております。計測のお客様に理化学機器を知っていただける機会をどんどん増やし、新規ビジネスに繋がってけば、更なる未来が開けると確信しています。

石井 学氏 (いしいまなぶ)
日本測器(株) 常務取締役営業本部長。同社は1931(昭和6)年に外国航路の船長をしていた野田啓太郎氏によって神戸で創業。あらゆる分野の高度な計測機器・計装システムの商社として、中国・タイ・ベトナムなどにも広く展開する。今回は明石社長に代わって、営業本部長であり、中部営業本部長でもある石井氏が寄稿してくださいました。



遠隔会議の先駆的役割としてテレビ会議システムを20年前からすでに導入。海外を含めて30拠点を越える事業所を結び、合意しながら事業を進めていく必要不可欠なシステムだったという。写真は会議室で遠隔会議に臨む明石社長。

環境・安全・安心をテーマに
「幸せ創造企業」を目指す。 代表取締役 社長執行役員COO 福島 豪

フクシマガリレイ株式会社
代表取締役 社長執行役員COO 福島 豪

変わりゆくニーズに柔軟に応え
お客様と共に食の未来を拓く

この10年間で最も衝撃をうけた出来事はやはり「新型コロナウイルスの拡大」です。食品関連市場にも強く影響し、外食産業では業態転換が多くみられる中、食品加工業や小売業は内食化の進展で活況を呈するなど、大きな変化をもたらしました。

当社でも、こうした背景を受けて食品デリバリーやテイクアウトに関連した受取用コールドロッカーや急速凍結を行うプラスチックラージャーなどの製品の需要が増えました。医療化学分野では薬用保冷庫の増産を行い、ワクチン接種への対応をしました。

コロナ禍を経験し、社会は大きく変化しました。これからのウィズコロナの時代で大切なことは、変化に柔軟に対応し、しっかり社会にコミットしていくことだと考えています。

どんな波が起きようと
自ら価値を創造することで
揺るぎない未来を手にする

何が起るかわからないVUCA時代(Volatility(変動性)、Uncertainty(不確実性)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(曖昧性))に、頭文字をとった言葉で、目まぐるしく変化する予測困難な状況を生き抜くには価値創造しかないと考えています。そのためのキーワードとして「S・D・G・人」という言葉を掲げました。

□S(サステナブル)

当社の事業は、地球温暖化という問題に対して、非常に大きな責任を負っています。そこで脱炭素社会の実現に向けて、サステナブルビジョン『Dramatic Future 2050』を定めました。気候変動に対して全社的なアクションを推進すると共に、温室効果ガスの削減量をはじめとする指標の実績を測定し、目標達成に取り組んでいます。

□D(デジタル)

DXへの取り組みについては“守りのDX”と“攻めのDX”の2つの側面があります。“守りのDX”は基幹システムの刷新でよりスピーディーかつ正確に決算を進め、生産性を上げる。“攻めのDX”は機器が故障する前に察知して事前に対処することで、お客様からのトラブルコールをゼロにする「Zero Call Company」です。検証段階の部分もありますが、実際に効果が出てきており、非常に手応えを感じています。

□G(グローバル)

当社の海外事業の売上は現在5~6%程度です。30年以上アジアで事業を行ってきて一定のインフラを築くことが出来ました。21年にはタイ工場の増設も完了し、さらなるラインナップの拡充も計画しております。アジアの生産拠点として、生産能力と対応力をさらに高め、皆様のニーズに応えていきます。

□人(人材)

冷蔵・冷凍業界では、高齢化が進み廃業を選択される事業者もいます。食のいのちの安全・安心を守り続けていくためには技能者をプロフェッショナルに育成する必要があります。そこで人材強化と早期活躍支援のための教育課程として、「ガリレイアカデミー」を開校しました。将来は社員だけでなく、業界全体の人材育成を目指しています。あらゆる仕事に挑戦できる人材を育て、挑戦できる風土を作っていく。教育体制の整備と従業員のエンゲージメントの向上に取り組んでいます。

福島 豪氏 (ふくしまこう)
同社は豪氏の祖父福島信夫氏によって1951(昭和26)年に創業。「冷やす」事を追求し、社員2000人規模の企業に育て上げた現会長の裕氏から代表のバトンを受けたのは2022年。現在は東京支社に籍を置き、全体の指揮を執る。

ZEB Readyの認証を受けている
オーバルマーク型の
社屋には食や農に関する様々な実験・
研究設備が整っている。
地元の方のための避難施設も
備わっている。



大学院卒業後は大手企業でコンピュータソフトの開発を手がけてきたと言っただけに、当社のことですがAI推進のチームリーダーとして活躍していた。



MILAB 食品研究室
おいしさ・安全性・栄養価などを最新機器で評価する



MILAB キッチン
新商品や新メニューの開発を行う人に厨房機器と空間を提供。食の未来を見据える



MILAB 食品工場研究室
トンネルフリーザーが6台設置され、生産工程を想定した試験が行える



IKAジャパン株式会社の新田隆氏が登場して下さったのは2016年新春発刊の516号。同社が奈良の大和郡山から東大阪に移転して6年目、新田体制が功を奏し始めた頃のことだった。

製品力の強さを生かし、 外資の弱さを克服した10年

IKAジャパン株式会社
代表取締役 新田 隆



「年間予算の半分をスペアパーツの在庫に当てている」という考えはコロナ禍で大いに功を發揮したのではないかと、思われた。グローバル展開は危機管理でもあると、新田さんは教えてくれている。

10年間で最も衝撃的だった 「為替環境」

問いの「最も」が難しいですね。10年もの時が流れますと個人的にもその時に「思いが深い」、あるいは「衝撃をあたえた出来事」があります。安部元首相がお亡くなりになられた事件などはその最たる出来事です。ニュースを見ながら思わず「ここ日本やぞお！」と叫んでしまいました。ご冥福を祈るばかりです。ただおそらくここで問われているのは業務上のことだと思いますので、対象を当社の経営環境に限定し「衝撃を与えた出来事」を述べます。

経営環境に最も衝撃を与えたのは為替環境です。この10年を振り返ればドル・円で最大で95%、ユーロ・円で54%も上下に振れています(ユーロ・円はリーマンショックの2008年が最も振れ幅が大きいのですが)。ドル建ての輸入品は両極端にとらえれば価格が倍になったり半額になったりしています。ほとんどの営業品目が輸入品の当社の業績に影響がないわけがありません。

昔読んだ本に「不景気(外的要因)は商売がうまくいかない原因ではなく、平等に与えられた条件にすぎない」(日本マクドナルド・藤田さんのお言葉)とありましたが、その言葉を胸に刻んで日々精進しているつもりです。が、日々の努力を一瞬で吹飛ばす急激な為替の変動には愚痴も出てしまいます。

為替予約などの取れるヘッジ手段は全て手当てした上、円高下においてはセールなどでお客様に還元し、円安下では心苦しいのですが販売価格に転嫁させていただきましました。ただ特に最近のコロナ禍やウクライナ危機の世界情勢下では販売価格維持(値上回避)より商品の安定供給を当社の優先的使命と考え、その時々決断して来ました。

時代が必要とする機能や 性能を備えた機器を供給

当社は外資の日本法人です。新製品の開発は親会社(ドイツ)が中心になって行っております。ドイツ本社を含め世界中の開発拠点では、コロナ禍である

うと新製品の開発業務をベースダウンすることはありません。2020年1月からの3年間に限っても、ちょうどワクチン開発に有効な発酵・培養用バイオリアクターやインキュベーターシェーカーなど6種(22モデル)の新機種と3種の既存機種のモデルチェンジ品を発売開始できております。その時代その時代に必要とされる機能や性能をアップデートした機器を供給することこそ、機器メーカーの使命と考えます。

コロナ禍で守り通した ふたつのこと

コロナ禍で最初の緊急事態宣言が発令された日、自分の中で密かに誓ったことがありました。「社員を誰も辞めさせない」と「一日も会社を閉めない(営業を継続する)」の2点です。無論社員の安全は最重要課題ですので、通勤に公共交通機関を利用する社員は在宅で働いてもらい、会社の近辺に暮らす社員や自家用車で通勤できる社員のみで営業を続けた期間もありました。緊急事態宣言が多少緩和された時期も、通勤の際の混雑を避けるためサマタイム・コアタイム制を導入し、出社時間などに関してはかなり個人の裁量を認めました。そうしながらもユーザー様、販売店様からのお問い合わせに対応し、行動に制限・制約がある中で商品の供給とメンテナンス



バイオリアクター Habitat



インキュベーターシェーカー



スターラー Twister

サービスを続けて来ました。

結果、私自身が気づかされたことがありました。「相当な裁量制を認めても当社の社員はそれぞれの役割を必ず果たしてくれる」という確信を持たれたことと、緊急事態宣言下「こんな時にごめんねえ……」と遠慮気味に当社へご要望を寄せてくださるたくさんのお客様の存在から「我々は世の中に必要とされる仕事をしている」と感じられたことです。もう当社にタイムカードは必要のないモノのように思います。裁量と責任感が両立するって強さなんやと思います。

これからもどのような危機に直面しようとも当社流の働き方を模索し、その時代その時代に必要とされる機能や性能を備えた魅力ある機器を日本市場に安定供給できる会社であり続けたいと思っています。

新田 隆氏 (にったたかし)
IKA ジャパン株式会社代表取締役
IKA はドイツ・ケルンで1910年、カート・ヤンケ、マックス・クンケルによって病院や薬局で使用する機器の販売店として創業。IKA ジャパンは1999年に設立された。それまで輸出関係の仕事に携わっていた新田氏は2003年、入社。2004年に代表取締役となる。



東大阪 IKA ジャパン

京都電子工業株式会社の新出孝司大阪支店長に登場いただいたのは2019年の534号。フリー設計のOMMのオフィスは大川を眺望。若手営業パーソンが活躍、色んな意味で豊かさを感じさせる企業だ。

さらに広がる計測と理化学機器。 国内外問わず、いかに柔軟な人材を育てるかに 10年後の未来も見えてくる。

京都電子工業株式会社
大阪支店 支店長 新出 孝司



同社には醸造のような食文化、環境や研究開発など、京都から世界へ直結する製品群が多い。新出さんは、知る人ぞ知るマラソンマン。

コロナは大変だったが 会社は若手が増え 活気がでてきた!

当然のことながら10年間で一番の衝撃は新型コロナウイルス感染症による感染者数、重症者数の増加です。それ以前は、日常的にマスクをするなど考えてもおりませんでした。

会社では、若手社員が増え、活気が出てきた事が大きな変化です。
(^^♪個人的にはあつという間に、毛

がなくなった事でしょうか。ある意味、一番衝撃的でした!!

コロナ対策としてはやはり、リモートワークやDX化の推進でしょうか!

若手社員に対しては親子ほどの年の差のため、子育てのように可愛がっております。

(^^♪毛髪についてはスパッとバリカンで丸刈りしました

コロナ以後は 社会貢献度の高い製品開発を 目指す様になりました

コロナ禍で果敢に取り組んだことと言えば、働き方改革によりワークライフバランスが整い、社員のモチベーションアップに繋がったこと。そして、社



世界初の非接触測定方式粘度計EMS-1000S
EMS粘度計は、磁場の力を利用してサンプル容器の外部から試料中の球状プローブにトルクを与えることにより、試料を完全に装置から切り離すことに成功しました。密閉・少量・温調での測定が可能でこれまで測定することが難しかった、低粘度の測定にも対応します。

会貢献度の高い製品開発をめざすようになったことと。

今後はDX化の更なる推進とリアルとバーチャルの融合でしょうか。加えて、京都ブランドを旗印に、当社にしかできない製品を世界に打って出たいですね。



熱中症指標計 (WBGT計)
世間一般に熱中症という言葉が浸透していない1980年代からWBGT計を販売し改良を重ねてきたWBGT-300シリーズは、本体に測定データを記録するメモリー機能やクラウドでのデータ管理を行うIoTサービスなどお客様のニーズにこたえる機能も多く搭載しております。

新出 孝司氏 (しんでたかし)
京都電子工業株式会社は名前からわかる通り1961(昭和36)年に京都において創業。「熱中症指標計」や「EMS粘度計」などユニークなものが多い。新出さんの開かれたお人柄もあるのだから、会社がとても明るくて、みなさん生き生きしている。楽しそうに仕事をするのは企業が伸びる大きな要素なのだろう。

この10年、
これからの10年

株式会社ヤマオカ
代表取締役 山岡 正朋

オークマンの取材を受けたのは
およそ10年前

大阪科学機器協会創立70周年、誠に
おめでとうございます。

弊社は、1921年に創業し2023年には、
102周年を無事に迎える事ができま
した。大阪科学機器協会にも設立当時
から会員として参加させていただいて
おります。

オークマンに掲載いただいたのは、
2012年の春号でおよそ10年前となり
ます。掲載号を再度読み返してみまし
たが、不思議なもので当時と環境は変わ
りましたが思いは何も変わっておりま
せんでした。

先代(父親)が早く(59歳)に亡くなり、
私は30歳で5代目として社業を引継ぎ
ました。オークマンとして掲載いただ
いたのは36歳の時です。

掲載当時の思いは、
「出会いを大切に、何事も基本断ら
ない」
「じっくり、ゆっくり。しかし確実に進
む(動く)」
「社員一人ひとりが、自覚と責任をもっ
てあらゆる場面においてユーザー様の
期待に沿う仕事をする」
とありましたが、今でもその思いは変
わりません。言い回しは違えど、同じ様
なメッセージを常々伝えております。

10年で変わったこと
変わらないこと

この10年での変化ですが、大きいと
ころでは

- ・2016年 オリジナルブランドとし
てPスプーン®、Pスコップ®販売
を開始
- ・2018年 新社屋完成
- ・2020年 就業規則・賃金規定・育介
休規定の見直し
- ・2022年 中期経営計画発表、SDGs
宣言、ホームページリニューアル

となります。

オリジナル製品を開発する事で全国
的にヤマオカをブランディングしたい
強い思いがありました。大変ありがた
い事にPスプーン®、Pスコップ®は、現
在多くのユーザー様でご採用いただ
いております。

また、新社屋を完成した事で新たな人
材を確保でき、引続き継続的な成長を目
指しております。

2022年には、ヤマオカの規模では珍
しいところですが中期経営計画を作成・
発表。社員全員が考え、行動し、発表す
る土台をスタートする事ができました。
ゆっくりではありますが、確実にヤマオ
カは進んでおります。

コロナ禍は社会の期待に
応える期間

2020年1月に端を発したコロナです
が、医・食・学に従事している業界の一企
業として我々の取扱う品目が社会から
多くを求められました。この3年は、そ
の期待に応える期間だったかと思いま
す。現在、発生から3年が経ち少しずつ
ではありますが、元の景色に変わりつつ
あります。確かにコロナのせいでも
多くの「モノ」を失いましたが、逆にコロナ
のおかげで多くの「モノ」が、より良い方向
に進んだのも事実です。

今後も同様な事が起こりうる可能性
は十分考えられます。その際は、情報を
収集し、最適化する事で難題をも乗り越
える事が出来ると信じております。一
個人、一企業が社会を変える事は、容易
ではありません。しかしながら、一個人、
一企業から変化(行動)を起こす事はでき
ます。その思いを大切に持ち、より良
き社会の一翼を担う会社を目指し、業界
の発展にお力添えできるように次の10
年も邁進してまいります。
ありがとうございました。



10年前との大きな違いはひげを蓄えたこと。子どもたちも18歳、16歳、14歳に。



ヤマオカの名を理化学業界や医療機器業界にブラン
ディングする意味も込めて開発したPスプーン®とPス
コップ®。クリーンルームで使用していただけるように
現場の声を徹底的に拾い、多くの工夫を凝らした。



1921(大正10)年創業。理化学用ガラス器具の製造販
売を始める。本社新社屋は2018(平成30)年10月に
大阪市北区中津5丁目に完成。2021(令和3)年4月
の100周年は、この新社屋で迎えた。

山岡 正朋氏(やまおかまさとも)
大正10年創業の(株)ヤマオカの5代目代表取
締役。理化学機器、実験機器などバイオテク
ノロジー関連の機器を扱う商社である一方、オリ
ジナルブランドとしてPスプーン®、Pスコップ®
の製造も手がける。同社は昭和27年の日本理
化学機器商工会近畿支部『大阪部会』の立ち上
げメンバーでもある。山岡氏は30代の時に第
10代ORK II会代表幹事も務めている。

増田理化学工業とグループ化。物流センターも開設し、
大きく飛躍した10年

ケニス株式会社
代表取締役社長 西松 正文

ケニスと増田理化学工業。
両社の強みで生む
シナジー効果

大阪科学機器協会創立70周年、誠に
おめでとうございます。

この10年で最も大きな出来事は、大
阪を地盤に100年の歴史を数える老舗
企業、理化学商社の増田理化学工業とのグ
ループ化です。このことは当社にとっ
て大きな転機となりました。全国に販
路を有し、カタログを毎年発行する情報
発信力や物流力に定評があるケニスと
研究者をしっかりとサポートする専門
性や技術力に定評がある増田理化学工
業とのコラボレーションは、最適な組合せ
ながら、当初は非常に苦労しました。

しかし長年、大阪の販売店や仕入先に
深く愛されたブランドは、今もこの業界
に無くてはならないブランドだと思い、
グループ化を進めて参りました。

今では、お互いの強みとそれぞれの風
土を高次元で掛け合わせ、これまでに
ない新たな組織風土を生み出しています。
二つの企業がグループ化されることで、
まさにシナジー効果が生み出されたと思
います。

コロナ禍であっても
引くのではなく、
打って出ること

若い頃、先輩から「物流を制する者は
商流を制す」という言葉を教わったこと
があります。今の時代になり、改めてそ
の言葉の重みを感じています。当社にと
って、物流センターの開設は積年の課
題でした。そこで、2022年1月に、物流
センター『ケニス門真ディストリビュー
ションセンター』を開設いたしました。
コロナ禍で色々なことが縮小傾向にあ
りましたが、こういう時こそが飛躍のた
めの助走期間だということに感じてい
ました。新しい設備やソフトウェアの
導入は生産性を飛躍的に高め、成長を押

し上げます。新たな物流拠点をフルに
活かすことで、これまで以上に、お取引
先様の利便性の向上に繋げてまいりた
いと思います。

今後の企業ビジョンとして
「自律分散型組織」を指向

世の中の変化のスピードが速く、多様
性が求められる時代です。責任や権限
が一極集中するのではなく、一人ひとり
がアンテナを高く張り巡らせ、あちら
こちらで新しいビジネスが産み出させる
自律分散型組織を目指したいと思いま
す。そのための社内研修も実施をして
おり、今まで部長や課長が行ってきた研
修を年次が近い先輩が講師となる「繋
ぎの・伝える型」の研修を取り入れてい
ます。一方で、時代に合った新しい働き
方についても模索しています。ペーパー
レス化やノートパソコンへの切り替え、
基幹システムの入れ替えを実施し、業務
の標準化と情報の共有化を進めた結果、
この2年間で売上を増やしつつも20%
の勤務時間削減を成功させました。他
にも、育休や有給制度の見直し、オフィ
スの刷新、モラルサーベイ(従業員意識
調査)などを行うことで、職場環境の改
善を進めています。これからも理化学
業界に無くてはならない企業として、大
阪科学機器協会とともに成長していけ
るよう努めてまいります。



ケニス大阪本社
2008年10月に新築した大阪本社。門真物流センター
稼働に伴い、内装を全面改装し、スタイリッシュなオフィ
スとなった。



ケニス(株)と増田理化学工業(株)のグループ化がな
されたのは2016(平成28)年1月。西松氏は同時に同
社の代表を務めることになった。増田理化学が培って
きた技術・人的財産を無にしないかと西松氏は当初から考
えていた。



ケニス門真ディストリビューションセンター
新しい物流センターでは自動倉庫とハンディターミナル
を導入し、これまで以上に効率的な入出庫が可能とな
った。これにより、1万点を超えるアイテムを適切に
在庫管理し、迅速かつ正確に顧客に届ける体制を整備。
新しい基幹システムも導入し、見積もりや受注業務だ
けではなく、商品管理の効率化も図る。現状の稼働率
はまだ余裕があるため、今後さらに商品数が増えても
十分に対応できるようになっている。

西松 正文氏(にしまつまさふみ)
ケニス株式会社代表取締役社長・
増田理化学工業株式会社代表取締役
昭和22(1947)年、祖父の張氏により学校
教育用教材を扱う科学共栄社を設立。その後、
理化学分野へも進出。2001年、社名をケニ
スとしてからは理化学分野の成長にも拍車がか
かった。2010年、西松正文氏が代表取締役社
長に就任後の2016年に増田理化学工業をグル
ープ化。互いの強みを生かし、業績を伸ばしている。

ORK、今までの10年。 そして、これからの10年を考える。

あれから10年。
今、10年の時の重さが
迫ってくる。

くことから、いわゆる物流をどうスムーズに動かすかという問題も起きてきます。

小川 そうですね。東日本大震災では関西と関東の事情は大きく違っていました。2011年当時、私は東京にいましたので、電力制限が強く記憶に残っています。福島原発事故の影響で東京では地域による計画停電が盛んに言われました。幸いにも自宅があったエリアには基幹となる総合病院がありましたので実際には計画停電は起きなかったのですが、会社の方は計画停電にかなり影響を受けました。当社はメーカーさんの機器がきちんと機能しているかどうかを調べる受託試験を請け負っています。東日本ですと宇都宮の試験場で行っていたのですが、受託試験は非常に電気を食うので受けられない状況になり、一部事業を削ったり、西日本エリアの設備で請け負ったり、大変な事態になりました。

岸本 当時、私はSpring-8で修論の結晶解析の研究を行っていたのですが、やはり電力の問題で研究時間が削減されたのを覚えています。学生でもそうだったので企業さんはもっと大変だったのではないのでしょうか。
小川 当時、東日本で担当していた企業さんには基板ですとか半導体を手がけているところが多く、そこが止まってしまったものですから、精密機器の最重要部分に積むべき部品の調達に難しくなり、その後、*中国サプライチェーンへの見直しが盛んに行われました。

岸本 そうですね。ところが今回のコロナで、皮肉にも中国からの調達が難しくなりました。このコロナで大きく動いた商材と、逆に、全く動かない、あるいは動けない商材もありました。事業自体は景気の波に左右されることがありますが、今回のコロナや天災では、景気の波とは全く違った形で起こりました。我々の扱う商材は単一素材で、しかもプラスチック樹脂製品は90%が国内での地産地消なので影響は少なくすみました。原材料や消費が海外主体の製品となると大変だったろうと思います。精密機器や複合部品の調達のように1カ国ではすまない場合も大変だったでしょうね。

酒井 特にコロナは世界的な出来事だったので今後に

2011年の東日本大震災が 社会を大きく変えた

—今回はお集まりいただきありがとうございます。10年前の60周年記念誌では現役の理事の方々にお集まりいただき座談会を行いました。今回は、結論らしきモノは想定せず、忌憚のないところを語っていただこうと、30歳代から40歳代のみなさんにお集まりいただきました。正直に申し上げて、この慌ただしい時代に10年後を見据えていただくことは困難かもしれません。まずはこの10年は、どんな10年でしたか？

西野 10年前というと、ちょうど東日本大震災直後で、やはり震災の印象が強く残っています。当時まだ私は学生でした。

岸本 確かにあの震災を境に色々考えさせられることが起きたと思います。というのも当社の商材は天災に供給が左右されるものもあり、例を挙げると、天災が起きると直ぐに懸念されるのが水不足。ですからポリタンクなどのご依頼や寄贈が市町村からあがってきます。さらに、阪神淡路大震災の時にもそうでしたが、物量が大きく動



今回はORK II会前代表監事の酒井さんと現代表幹事の安藤さん、大阪科学機器協会誌『ORKマン参上』に登場いただいた田島さん(505号)と岸本圭司さん(533号)、さらに30代の若手経営者西野さんをお迎えし、弊誌からは小川・岸本彩花広報委員が参加。辻広報委員長が進行を担当した。

座談会出席者

酒井 一氏(さかいはじめ)

大研科学産業株式会社 代表取締役
同社は1947(昭和22)年創業の長谷川器械店と1948(昭和23)年に再開業した石川器械舗が1949(昭和24)年に合併し、大研理化学器機械部の代理店となり、技術商社としての歩みを開始。1973年に社名を大研科学産業(株)に変更し、現在は島津製作所の大阪府と兵庫県の販売代理店を務め、分析装置を主体に扱う。ORK II会では2019年度から2020年の代表幹事を務める。



岸本 圭司氏(きしもとけいじ)

三宝化成株式会社 代表取締役社長
伊藤忠商事に吸収合併された安宅産業傘下で、合成樹脂を扱っていた三宝合成という商社を1977(昭和52)年に、父の洋司氏が再船出させた。商品の大半は金型の企画から起こすもので、工場を持たないファブレスメーカーとしてやってきた。2015(平成27)年、圭司氏が2代目代表取締役社長に就任。社名の由来ともなった「三宝良し」の考え方を踏襲し、「地球に優しく、将来を見つめた愛ある物作りを目指していきたい」という。同社は理化学用容器・化粧品やトイレタリーなど、プラスチック製品を企画・製造するメーカーの側面と製品を仕入れ、販売する商社的な側面を併せ持つ。



安藤 仁氏(あんどうひとし)

大研理化学器株式会社 代表取締役社長
仁氏の祖父が1946(昭和21)年5月に安藤正信商店として創業。1950(昭和50)年9月に大研理化学器株式会社を設立。安藤寛芳氏、安藤秀信氏(仁氏の父)と代替わりし、2021年、4代目を仁氏が引き継いだ。古くからエスベック株式会社との関係が深く、仁氏も大学卒業後7年間は同社の開発部門に籍を置いていた。ORK II会では2020年度～2022年度に代表幹事を務める。「会社にしてもORK II会にしても立場が変わるともの見え方が変わってくると思います。その意味でも今の経験を生かして新しい世界にチャレンジしたい」という。



田島 乾氏(たじまつよし)

株式会社服部 代表取締役社長
創業は1895(明治28)年。アメリカで眼鏡作りを学んだ服部亀吉氏が神戸で『服部宝生堂』という眼鏡店を開業したのに始まる。1971(昭和46)年、株式会社服部を設立。2013(平成25)年、5代目社長に田島乾氏が若く33歳で就任する。事業の主体は港神戸らしく造船や鉄鋼業界、プラントに向けて温度計や圧力計などの計測機器の販売を行っている。当協会には2012年に加入。現在、ORK II会常任幹事を務める。



西野 道治氏(にしのみちはる)

西野産業株式会社 取締役営業本部長
創業は終戦直後の1945(昭和20)年9月に祖父の西野林一氏が西野商店として創業。精密測定機器、自動制御機器、電気計測機器など検査用精密測定器専門商社。道治氏は大学卒業後、銀行に勤務。2016年に同社入社し、以来、営業本部に所属している。2019年にORK II会に入会。現在、ミクロン計測器株式会社の代表取締役を兼任。





(株)サンプラテック様社屋の「ジョイントスペース」を座談会会場に提供していただいた。

小川 光 (おがわみつ)

エスペック株式会社 経営企画室室長。ORK 広報委員として参画。

エスペック株式会社は1947(昭和22)年に、田葉井五郎氏 専務田葉井敏雄氏、2代目社長小山栄一氏によって科学機器の製造を目的として、現本社所在地にて創業。1960(昭和35)年、日本初の環境試験機の開発に着手した。大阪科学機器協会発足メンバーで、田葉井五郎氏は第5代会長、小山栄一氏は第7代理事長を務める。小川氏は入社以来、東京支社にて営業を担当。2018(平成30)年、大阪本社に転勤し、営業企画部を経て現部署へ。



岸本 彩花 (きしもとあやか)

ケニス株式会社 企画部主任。ORK 広報委員として参画。

同社の創業者(現社長の祖父)西松張尾氏は1910(明治43)年生まれ。この年にハレー彗星が世を賑わしたことから張尾と名付けられた。1947(昭和22)年、学校教育に携わっていた兄弟と共に教育の現場で使う理科教材の機器開発と製造を行う科学共栄社を創業。その延長線上で大学や企業の研究室向け理化学機器の開発・製造及び商社的な役割も担い始め、教育と理化学のケニスの誕生となった。岸本氏が所属する企画部は同社が扱う製品のカタログ制作をはじめ製品開発を担当する。4年前に長期休暇を申請し、世界一周旅行を敢行。弊誌で紀行記を連載中。



進行: 辻 寿憲 (つじひさのり)

大科電器株式会社 代表取締役社長

1931(昭和6)年、現社長の祖父が台北市で理化学機器の製造販売をする辻器械店を創業。戦後、1950(昭和25)年、北区中崎町で大科工業を創業し、当協会設立メンバーに加わる。その後、長男寿一氏(現社長の父)とマンツルヒーターの独自改良に力を注ぎ、事業拡大のために1963(昭和38)年、大科電器を創業する。ガラス繊維とニクロム線を材料に人の手で編み込んで複雑な形を創り上げるヒーターは未だ他の追随を許さない。2006(平成16)年に広報委員に就任し、2014(平成26)年より広報委員長を務める。今回70周年編集委員長を務める。辻氏の大阪締めは飄々としたおかしみを誇い、肩怒らせることを嫌う大阪人の気質を反映。



大きな課題を残した3年間だったと思いますね。コロナと話が前後しますが、東日本大震災当時、東日本に一極集中していた、特にData機能などを西日本へ移行したり、関東と関西の両輪で機能するようにしておかなければならないという危機管理のあり方が問われました。今回のコロナでは、それが供給や物流にまで及び、海外がストップした場合にどうするのかという問題も含め供給や物流がクローズアップされました。

安藤 環境問題も含めて電力問題もこの10年の間に大きな課題になってきました。今、太陽光発電を自社ビルでするという企業さんも増え始めていますけれども、この10年はいろんな意味で転換点になった10年だった気がします。

どこの企業も次世代への世代交代の10年だった

—2011年の東日本大震災と2020年からのコロナが日本の産業構造を大きく変えつつあるというわけですね。

産業構造が変わりつつあった10年でしたが、ではみなさんの身の回りはどうだったでしょう。

安藤 10年前というと、第二次安倍政権が始まった頃で、やはりアベノミクスで、一方には批判はありましたが商売の面ではそれ以前より伸びていた感覚はありました。でも金融緩和が続くなか、コロナで経済が落ち込み、それも飛んでしまった、今はそんな状況かなと思います。個人的にはORK II会で幹事に加えていただいた頃です。幹事の仕事ばかりしていた10年ともいえるかもしれません(笑)。

酒井 私は社長になって7、8年経った頃。ORK II会の代表幹事になって全国的な動きのお話に駆けずり回っていた、とにかく動き回っていたという感覚の10年です。私自身も団塊の世代の子ども世代なので、会社は世代交代の時期に入っていて、若手の採用に血気盛んに動いていた頃だったと思います。目上の方は尊重しなくてははいけなけれど、自分と同じ目線で動ける若手の採用に動きたい、そんなことで動いていた時でした。

田島 私は自分が社長に就任したのが2013年。ちょうど10年前です。でも自分がいっぱいいっばい(笑)、この10年、何があったのか、本当のところよく覚えていません。仕事の関係が結構多かったのですが、2011年の震災で一切なくなり、大変でした。

—酒井さんが「従業員の世代交代の時期に当たり、大変だった」と言われましたが、老舗企業である服部さんではどうでしたか。

田島 当社もいわゆる団塊の世代が定年退職期に当たり、退職金などの待遇面をどうしていったらいいのか、今も体制の整備を行っています。また社長就任と同時くらいに大

阪科学機器協会に加入させていただき、さらにORK II会にも加えていただいたので、非常に勉強になりました。

10年前に予測したことへの進捗具合を今、どう捉えるか

—10年前の60年誌で「10年後にはこうなっているのではないか」と、技術や社会など、いくつかの予測が立てられていますが、それについてはどうですか。

岸本 60年誌に「山中先生のiPS細胞がもたらす影響が大きい」とありました。私もそう思っていましたので、企画部に配属されたばかりの頃、細胞培養に特化したコンセプトカタログを編集させていただきました。

小川 60年誌に「トヨタが2015年に太陽電池車の開発を達成する」と書かれています。ところが世界的には充電式電気自動車が主流ということで、今はそちらが注目されています。個人的には化石エネルギーの根本問題を解決するには*吉野彰先生が提唱するリチウム電池など、容量が大きく、効率的な電池の開発が重要だと思います。半導体なども今は世界に大きく水をあけられてしまいましたが、元々は日本が強かった技術。これからは方向性を見定め、進むべき方向を見誤らないことが大切だと思います。

酒井 コロナの功罪では功になるのかもしれませんが、在宅勤務やオンライン会議が推奨されたことによって、我々中小企業にもコンピュータシステムが一気に見直され、PCや社内サーバーへ社外からPCへリモートできることが一般化しました。また子どもの世界を見ても、学校閉鎖によって、子どもたちにノートパソコンやタブレットが手渡され、ITが進化しICTの導入が加速し子どもたちの世界でさえも体制が整いました。子どもの時から情報を享受し、機器を使いこなすことは、私たちの頃からは考えられないことで、次の時代、この子たちの中から新しい発想の技術が生まれて来るのではないかと楽しみです。

岸本 2020年にプログラミング教育が小学生に必修化されるというのを受けて、当社では2016年頃から学校現場にプログラミングの販売を始めました。また、STEAM教育も推進されており、10年経たずしてこれらの教育を受けた世代が社会に出てきます。自分とのギャップを感じると同時に、そういう子たちがどういった発想をするのか非常に興味がありますね。

電話、携帯メール、LINE

10年ごとに変わるコミュニケーションツール

岸本 10年周期で変わってきているものにコミュニケーションツールがあると思っています。この10年くら

まず平和であること。
その前提があつて初めて
未来予測が可能になる。

いはLINEが主流でしたが、その前は携帯メールでした。その前は固定電話から携帯電話への移行期で、電話そのものが主なコミュニケーションツールだったと思います。田島 そのサイクルからすると、この数年の内にLINEにかわるコミュニケーションツールが出てくるかもしれませんね。

西野 例えば10年後は会議室で座談会はしていないかもしれませんね。アバターで全く別空間に集合して話しているかもしれません。

—弊誌も紙媒体ではなくなっている可能性もあります。岸本 そうですね。今回、世界旅行に出てみて10年前とのネット環境の差を実感しました。学生の頃は地図を印刷して持って行って、何時何分の電車に乗ってと一生懸命準備して行っていたのに、今はスマホにSIMカードを挿せばどこでもネットに繋がって、出先で飛行機や宿の予約を取ることができる。じゃあ、次はどうなるのか、それこそ、VRでアバターを使って旅行するようになるのかもしれない。でも一方で、やっぱり原点回帰というか、実体験を求めるのは変わらないのじゃないか、という気もします。

—日本に旅行にいらっしゃる人だったら、より日本的なものを求め、自然により近い環境を求めてキャンプがはやりすることでしょうか。

岸本 そうです。でも、先日トルコ地震でシリアの世界遺産に被害が出ていたり、酸性雨で劣化している遺跡もあれば、アフリカでは気候変動で雨が減り、動物が絶滅の危機にある。10年後に世界はより便利になっているかもしれないけれど、失われてしまう景色もあるだろうと思うと、なんだか複雑な気持ちになります。

西野 60年誌に書かれていましたが、理化学にとって大事なガラス試験器の作り手が今、いなくなりつつあると



今、私たちが最も希求すべきは“平和であること”。優れた技術を子どもたちへと繋ぐために緑豊かで平和な地球を守っていきたい。

ありました。それに代用されるものはなにか生まれてくるとは思いますが、ガラスの職人さんがいなくなって作れないモノも出てくる気がしています。

岸本 一度失われた手仕事の技術はなかなか復活できません。そういう意味でなくしてはいけないものを本気で考える時なのではと思います。

まずは2年後の大阪万博 このときに私たちは何が提案できるのか

—ここからは70周年から80周年に向けて、10年後のご自分の姿、あるいは会社の姿を思い描いていただきたいと思います。2年後には大阪万博もありますが、いかがでしょうか。

酒井 会社のことはひとまず置いて、大阪万博に空飛ぶ車が出る!!といわれているのは、まあ、万博へお客様を動員するエレメントのひとつとしてはあり得るのかなとは思いますが、正直、分らないです。ただ私の感覚では、10年後に空飛ぶ車が走っているとは思えません。実際に2050年くらいでない、法律が追いついていないと思います。ただしAI、人工知能については60周年の頃は余り触れられていなかったことを考えると、10年間にどのような進展があり、どんな新技術が注目されるか、全く分らないですよ。

安藤 60周年の頃は、電池やバイオテクノロジーのことは盛んに言われていたのですが、いわゆるAIは言葉として浸透していたのでしょうか。人の能力を超えたものが出現するというイメージの次元の話だったのではないかと思いますね。今は市民権を得ています。例えば、分析装置にAIを入れていこうというような具体的な話を耳にす

るようになりました。

酒井 以前から機械や車のような大がかりなものではなく、ごく普通の分析装置にAIを導入したなら、お年寄りでも子どもでも、専門家でない人でも分析装置を使い、ルーチン分析は出来るのでは思っていました。雇用拡大にもつながるのではないかと。AIを特化させるだけではなく、普遍化できるものに使うことが利用価値を高めると思えますね。農業などの生産技術に導入し、幅広く簡単な方法で多くの人にやり方を伝え、生産を加速させれば、食糧難や貧困にあえぐ人々の力になるかもしれません。

岸本 病院関係にもAIを導入することで、今は難しいとされていることがすごく簡単に、そして効果の高いものが安価に手に入るかもしれません。

岸本 私はスマホをiPhone3から使い始めたのですが、徐々に進化はしているのは間違いありませんが、人の価値観をひっくり返すほどの進化はなかったと思います。私たちの仕事で考えると、今、流行りのバイオプラスチックなどははじめ、容器のマテリアルは環境に負荷のないものに替えていくべきです。新しい素材が研究されていくと思います。ただ、容れ物自体に大きな変化が起こるかという、それはちょっと考えにくいと思っています。2年ほど前、もうペットボトルの水の時代じゃないということで、水を柔らかいフィルムで包んだものが出たのですが、使用する絶対量に変わりはありませんでした。「そういったものが生み出される時代になったんだ」とは思いましたが、容器という概念は変化しにくいと思います。サステナブルの意識をもって容器の素材を考えていく、それは全ての業界につながっていくことではないでしょうか。

岸本 スターバックスやマクドナルドが紙の容器やスト

ローに替えましたよね。すごく不味く感じた記憶があります。

岸本 でも1年、2年とだんだん進化して飲みやすさや口当たりの良さが実現されました。単にSDGsというのではなく、走りながらでも改良を続ける姿勢は評価されるべきだと思います。

西野 先程、空飛ぶ車の話が出て、さらにAIを普遍化できる技術が大切だというお話がありましたが、私もそう思います。ですから今後の人口減少による社会の変化を考えますと、空飛ぶ車以上に自動運転の方が注目度は高いのではないのでしょうか。

人口減少に対応する 暮らしやすい社会を支援する技術

—今、西野さんからこれからの人口減少問題と新技術についての提言がありましたが、みなさんはどうお考えですか。

安藤 確かに人口減少による社会の変化は大きな問題になるでしょうね。10年も経てば今より人口減少が進み、多分働き手の獲得には苦労してそうですが、技術がそれを補っていると思います。

岸本 確かに。自動運転が進むことで、輸送の省力化、物流倉庫なども無人に近い状態になるでしょうね。事務処理も全く簡素化されて、人手の確保も今は違う形になるでしょうね。

安藤 ちょっと話が戻りますが、進化した電池のおかげでバッテリーがいろんなものに搭載され多くの人に使われるモノと機能が集積化して高性能になっていくモノと2極化すると思います。

小川 実はネット新聞で読んだのですが、プロンプターAIという技術開発の手助けをするAIがあるそうです。どういう性能のモノを作りたいのか言葉で先導し、目的の機器を作るらしいです。

西野 現在世界の人口は約80億人、2060年頃に100億人を超えるそうですが、同じ頃、少子化の進む日本では人口が9000万人になるそうです。2025年には3人に1人が65歳以上と言われていますが、そうなると高齢者と若い人と両方の層に融合的な発信をしていかなくちゃいけないのかなと思います。

岸本 融合的という言葉で思ったのですが、先日も3年ぶりに海外に出て、いろんな国のことを見ておこななくちゃいけないと思いました。以前、中国に行ったときに「中国のような人口の多い国では、単に生産性の追求ではなく、仕事が皆に行き渡ることが大事だ」と言われました。これから人口が伸びてくるインドなどの南アジアやアフリカの国と付き合う場合は、一部分にハイテクノロジー

*中国サプライチェーン

中国からの供給体制が圧倒的な強さを見せていたが、コロナで中国からの供給が途絶えた結果、中国依存から脱し、インドやベトナムにシフトする動きが本格化しているという。また、サプライチェーンの強靱化（レジリエンス）を求めて、生産拠点を日本に戻す動きも出ている。特に半導体やリチウム電池など、かつては日本がリードしていた技術力を取り戻す意味でも、国内生産体制を再構築する考えもある。

*吉野 彰氏

2019年、ノーベル化学賞受賞。旭化成（株）名誉フェロー。2016年のサイエンスエキスポに於いては『リチウムイオンの過去・現在・未来』と題して基調講演をしていただいた。同氏が提唱する第4次産業革命という考え方は日本の将来にとって示唆に富む。それは「モノ」技術と「情報」技術を融合させて新しい社会を生み出そうという考え方で、それを実現していく手段が人工知能（AI）、IoT、シェアリング、第5世代移動通信システム（5G）などの新技術・新概念。これまでの産業革命で生み出した負の遺産である環境問題を清算し、持続可能な（Sustainable）社会を実現していくのが第4次産業革命であると述べられている。

*科学白書 society5.0

内閣府から科学技術施策として発表されている第5期科学技術基本計画で我が国が目指すべき未来社会の姿として提唱されている。その未来社会とはサイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会。

の技術が集積するより、ややレベルは落ちてでも敷衍化でき、多くの人が享受し、恩恵にあずかれる技術が望まれています。バランスも大切だということです。

酒井 先日、*科学白書の中のソサエティ 5.0を見ていたらこれから望まれる技術のあり方について「仮想空間と現実世界の融合、安全・安心を確保する社会、一人一人の多様な幸せの実現」と言う3つの項目が並んでいました。一つ目などはDATAを集積してアバターの世界で試してみることとかもかもしれませんが、例えば大阪に居ながらにして北海道でスキーを楽しむことが出来てしまうのかもしれない。それには視覚だけではなく、風や匂いなどもそれらしく感じる世界ということでしょうね。

岸本 五感を使ってその世界に居るような感覚になるんですね。

酒井 1980年代にテレビで流れていた『ナイトライダー』というアメリカのテレビドラマも、今考えると自動運転の車でした。やっぱり人は、願ったモノは実現していくんですね。

安藤 それをどう扱っていくかっていうところが大事ですね。そのとき、世界は平和なのか。元々インターネットが分析的なところからスタートして高度なテクノロジーを獲得した背景には軍事産業の進展があったとは思いますが、10年後の世界、日本は平和なのかどうか気がになります。

—ほぼ10年周期で記念誌を出してきて、今回も何とかそれが実現しそうです。それも安藤さんが言われるように、平和だからこそです。予測ができない10年にならないように、次代へ、協会活動もつないでいきたいと思えます。本日はありがとうございました。

ORK GRAFFTI 2013-2023

この10年のORKの動きを写真でお伝えする「ORK Graffiti」。
ORKには現在212社(2023年7月30日現在)が加入し、年間を通じてさまざまな行事が行われていますが、当協会の行事はいわゆる経営幹部のみならず、新入社員からベテラン社員までを対象に、幅広い職位の人が参加できる行事が設けられていることです。
大阪科学機器協会には1000人規模の企業もあれば、2、3人規模の企業もあります。またメーカーもあれば、商社もありますが、共通項は企業の研究開発を支える理化学機器を扱う企業であること。そして業界全体で次代を担う人材を育てていこうという思想を持っていることです。

1952(昭和27)年 日本理化学機器商工会近畿支部 『大阪部会』が発足

大阪科学機器協会は1952(昭和27)年4月、日本理化学機器商工会近畿支部『大阪部会』の準備懇談会が開催され、この席で『大阪部会』の結成発足が決定されたのに始まる。この準備懇談会に理化学機器業界80社中59社が参集したと言われ、発足に当たり、第1代部会長に佐竹化学機械工業の佐竹市太郎氏が選出された。『大阪部会』には準備懇談会を超える86社が名を連ねたという。

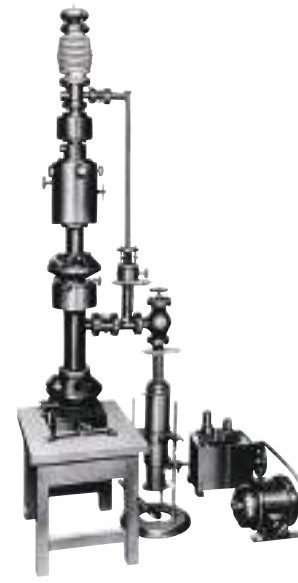
1945年8月15日、焦土と化した日本がようやく立ち上がりの兆しを見せ始



大阪ガラス発祥の地を示す石碑
寛永年間、中国から硝子細工の職工が渡来。彼らは長崎でビードロの制作を始めた。これが今も大阪に伝わる大阪キリコと言われる硝子製品。それに対して理化学用の硝子は舶来吹きと呼ばれる製法で明治になって伝わったと言われている。理化学硝子の創始者として伊藤敬針という人の名が上っている。石碑は天満宮の前に立つ。



第5回国内勲業博覧会
1903(明治36)年に大阪天王寺で開かれた博覧会。各企業が市場を拡大し、日本では鉄道網がほぼそろうた頃。この博覧会開催によって大阪市は莫大な経済効果を受け、その後の産業振興が進んだ。



昭和16年 国産第一号電子顕微鏡

1955(昭和30)年には国内総生産(GDP)が戦前の水準を初めて上回り、8兆9991億円にまで達したという。

さらに1956(昭和31)年7月に、政府は経済白書において「もはや戦後ではない」と宣言。この当時の輸出船のブームに始まる好景気は「神武景気」と名付けられ、大阪港や神戸港などの良港を持つ関西では造船業が大きく業績を伸ばした。一隻の船には多くの計器が取り付けられているため、造船の好況は理化学業界全体にも多大な恩恵をもたらしたと言われている。

1960年4月、 『大阪理化学機器商工会』設立 『大阪科学機器協会』がスタート

1960(昭和35)年4月、『大阪部会』は第4回定時総会を開催。大阪の業界の結束を図るため『大阪理化学機器商工会』を設立した。更に1962(昭和37)年には『大阪科学機器協会』と名称を改称し、現在のORK(Osaka Rikagaku kyokai)と呼ば



医療機器から理化学機器へ
大阪道修町は薬種問屋が軒を並べる町として知られていた。明治になるとこの薬種問屋から医療器械を扱い、やがて理化学器械を製造する店が現れた。京都の島津、大阪の白井松などは理化学機器の先駆といえるだろう。大正から昭和初期には大阪理化学機器組合も結成されていた。上の写真は、大正から昭和初期の組合で旅行した写真。下は日本理化学器械工業組合大阪支部の写真。東野田近くに事務所があった。



昭和37年、新年懇親会を相生楼でおこなった。



昭和31年製造の攪拌機

- 1952(昭和27)
 - 4.12 日本理化学機器商工会近畿支部に大阪部会発足
初代会長は佐竹市太郎氏
講和条約・日米安全保障条約発効
- 1953(昭和28)
 - 4 京都府立商品陳列所で近畿地方工業技術連絡会主催の「新しい理化学工業機械大展覧会」に協賛し、展示を行う。
大阪府立大手前会館で第1回大阪部会総会を開催
 - 5 第1回野球大会
NHKテレビ本放送開始
- 1954(昭和29)
 - 4 2代目会長・部会長に青井捨三氏就任
- 1956(昭和31)
 - 4 大阪見本市に3団体(ORK、レントゲン工業会、大阪医科器械商工会)共催の展示会を開催。
近畿支部を解消し、大阪・京都支部となる
3代目会長・支部長に中井繁雄氏就任
大阪新世界の通天閣再建
- 1957(昭和32)
 - 7 貿易部会「大阪理化学機器輸出振興会」新設
- 1958(昭和33)
 - 2 中国広州で開催の日本商品展覧会に出品
EEC(欧州経済共同体)発足

HISTORY

ORK GRAFFTI

2013-2023

れるようになった。

経済の好調によって新技術の開発にも拍車がかかった。1954(昭和29)年に日本初の国際見本市が大阪で開かれたが、1956(昭和31)年には『大阪部会』として国際見本市会館で三団体(ORK、レントゲン工業会、大阪医科器械商工会)が共催で展示会を開催している。さらに1967年(昭和42)年には『第1回科学機器展』が国際見本市会館で開催されることになった。これはその後の『サイエンスエキスポ』や『JASIS関西』へと続く記念すべき展示会と言える。

理化学機器(例えばガスクロマトグラフ、真空ポンプ)や機器の輸出状況、はたまた新しい社員の給与体系など、あらゆる分野にわたっての勉強会や講演会などが盛んに行われた。これらは後の友好3団体[ORK、(一社)大阪医療機器協会、日本薬科機器協会]による講演会(1974年7月に第1回講演会・1982年1月第1回友好団体合同新年互礼会開催)やビジネスセミナーの開催に結びついただけではなく、一社一社が企業としてどう体制

を整えていくかという問題にも繋がっていた。

『大阪部会』が誕生した頃、学びのための私的なグループもいくつか誕生していた。『八日会』は毎月8日を定例日として種々の懇親会を開催していた。また『八日会』が企業経営者を中心とする会ならば、若手が作るグループに『サイエンスクラブ』があった。こちらは懇親会というよりも勉強会を目指す会であった。1982年10月には若手経営者の会『ORK II会』が発足している。

親睦の会を核にして 次代を担う 人材を育てていく

新春の友好3団体新年互礼会や年度初めの総会などは経営層を対象に行われることが多い。1983年11月に有馬グランドホテルで第1回目の秋季懇親会が行われたが、この参加者も経営に関わる層の参加が主流である。それに対して、1989年1月に始まったビジネスセミナー

は参加者を広く若い人にも呼びかけている。2、3ヶ月に1回のペースで様々なテーマを設定して講師を招聘し、2023年の夏現在、147回のセミナーを実施している。スポーツ系の親睦会も盛んである。第1回目のゴルフ大会が開催されたのは1969(昭和44)年8月。アメリカのアポロ11号が月面着陸を果たした年である。それから4年後の1983年11月第1回ボウリング大会が始まっている。1企業1チームとして、チーム一丸となって試合に挑むのが1985年に始まったソフトボール大会。実はこの前身と言うべき野球大会が始まったのは意外に古く、『大阪部会』が発足した翌年の昭和28年には春季野球大会が計画され、3日間を掛けて11チームが参加し、リーグ戦が展開された。優勝は堀川硝子製作所。しかも驚くべきは第2回大会がその年の秋に行われ、13チームが参加。現在のエスベック(株)の前身、田葉井製作所チームが優勝している。初秋に行われるソフトボール大会の日は、勝っても負けても社員が一堂に集う社員懇親会の日と決めている



昭和34年4月29日、有馬温泉中の坊で行われた総会



昭和35年4月 第4回大阪見本市会場での出展の様子



1967(昭和42)年6月に国際見本市会館(現インテックス大阪。当時は朝潮橋にあった)で行われた第1回科学機器展。



第2回科学機器展

企業もある。

比較的新しい夏の行事として人気を博しているのがビアパーティーだ。始まったのは2005(平成17)年。もっと広く会員が集えるイベントを企画したいと、会員交流会というネーミングで理事の方々が模索。運動会や遠足など、多くの案が出たが、最終的にビアパーティーに決定。当初は屋上ビアガーデンで始まったが天候に左右されることと、戸外は話し声が聞こえないということで、屋内ビアホールに。コロナで中断はあったものの、多いときには400人前後のみなさんが集

まって開催される。

今回我々はコロナを経験し、機器を活用したりリモートの技術などを大いに取り入れることに成功した。仕事はもっと合理的にできるはずだと、改めて気づいたのである。その一方で、人を育て、欲びを分かち合うには、リモートでは事足りないことも身を以て感じる日々であった。会うことによって微妙なニュアンスから大きな情報をつかみ、会うことによってより深く思索する。これからの10年。更に広く、更に深い世界を求めて、ORKは進んでいく。



1990(平成2)年のイギリスの「BLW展」『環境技術展』の視察の様子が地元のLABORATORY NEWSに掲載された。

1959(昭和34) 11 第1回秋季懇親会開催
皇太子(平成天皇)結婚式

1960(昭和35) 6 大阪支部を解消し、大阪理化学商工会を設立
4代目会長に塚田篤氏就任
OPEC結成

1961(昭和36) 4 第1回総会を相生楼で開催
7 機関誌『ORKだより』創刊

1962(昭和37) 4 大阪科学機器協会と改称
第1回永年勤続従業員表彰(現優秀社員表彰)
5代目会長に田葉井五郎氏就任
NEC国産初の大規模電子計算機発表

1963(昭和37) 第1回新年懇親会
ケネディ米大統領暗殺の現場をテレビ宇宙中継受信実験が映し出す

1964(昭和39) 6 第1回囲碁大会開催
東海道新幹線開通
東京オリンピック開催



1967(昭和42) 6 第1回科学機器展を国際見本市会館本町会場にて開催
首相、非核三原則を言明

1969(昭和44) 6-8 第1回麻雀・第1回釣り・第1回ゴルフ大会開催

1970(昭和45) 大阪で日本万国博覧会開催





展示会

「サイエンスエキスポ関西2011」に続いて2年後、「サイエンスエキスポ関西2013」が大阪湾岸に建つインテックスに於いて開催された。しかし、その3年後の「サイエンスエキスポ2016」では、長らく展示会が行われていたインテックスを離れ、大阪の中心部とも言えるグランキューブ大阪（大阪府立国際会議場）に会場を移している。さらにその後は、主催団体をJASISとし、展示会は新たな展開を迎えることになった。

サイエンス エキスポ2013

会期 2013.11.13~15
場所 インテックス大阪

この展示会で大きな注目を集めたのはノーベル医学賞を受賞した山中伸弥先生と両輪で京大IPS細胞研究所を運営する戸口田淳也副所長の講演会があったことだ。1日目の入場者数は1337人、講演のあった日は2856人、最終日は2030人と関心の高さを伺わせた。

光技術の専門展示会「オプト関西2013」も併設して開催された。



大画面を駆使しての講演会は非常に分かりやすい。視覚情報がいかに大切かを教えてくれる。



「オプト関西2013」と「アンチエイジング研究開発展」と同時開催と言うこともあり、トータルで118社の企業・団体の参画を得た。



大阪南港ポートタウン「インテック大阪」での開催はこれが最後となった。梅田から地下鉄、ニュートラムに乗り換えてというのは近いようで遠い。大阪市を中心部の空洞化をどう解消するのかということが話題になっていた頃のことである。

サイエンス エキスポ2016

会期 2016.12.6~8
場所 グランキューブ大阪

この展示会ではノーベル賞の最有力候補と言われていた吉野彰先生（2019年、ノーベル化学賞受賞）をお迎えし、「リチウムイオン電池の現在・過去・未来」と題してご講演いただいた。また村山昇作先生には「iPSテクノロジーで拓く新たな創業の世界」と題してご講演いただいた。

6日には1021人、7日1833人、8日には1972人の来場者があり、76社・団体が出展した。展示会実行委員長を井内卓嗣氏が務めた。



吉野彰（よしのあきら）氏
現在、旭化成（株）名誉フェロー。技術研究組合リチウムイオン電池材料評価研究センター理事長。名城大学大学院理工学研究科教授。1972年、旭化成工業（株）入社。イオン二次電池事業推進部商品開発グループ長を経て同社吉野研究室室長。2019年、欧州特許庁「欧州発明家賞」に次いで「ノーベル化学賞」受賞。



本展示会では展示のみならず、大小の会場を使って、多彩な技術セミナーが開催された。最新技術セミナーは9社から19テーマが挙げられた。



76社、138小間の展示が行われた。来場者数は3日間併せて4826名。地の利の良さだけでなく、多彩なセミナーが多くの人に足を運ばせる要因になったといわれている。

1971 (昭和46) 6 会誌「ORKだより」100号発行
第3回科学機器展を
OMMにて開催

沖縄返還協定調印

1972 (昭和47) 4 創立20周年記念式典を太閤園で開催

田中首相訪中、日中国交正常化

1973 (昭和48) 3 ベトナム和平協定調印

オイルショック、第一次石油危機

1974 (昭和49) 6 第1回友好団体合同講演会開催

史上最高の物価上昇率(32.4%)

1977 (昭和52) 5 機構改革により、専門部会新設

11 創立25周年記念式典を
有馬グランドホテルにて開催

1978 (昭和53) 7 研修会スタート
(第1回目は我が社の経営理念)

1979 (昭和54) 10 「科学機器ガイド第1版」発行
第7回科学機器展を
大阪国際見本市港会場で開催

第2次オイルショック
ソニー・ウォークマン発売

JASIS関西 2019

会期 2019.2.5~7
場所 グランキューブ大阪

秋に東京幕張メッセで行われるJASISの関西版として行われることになった。5日には1490人、6日には1294人、7日には1254人の来場者を集めた。ORK誌は参加企業全取材を目指して動いた。



代表者4名によるオープニングのテープカット。[左から]中本晃（一社）日本分析機器工業会副会長、栗原権右衛門（一社）日本分析機器工業会会長、矢澤英人（一社）日本科学機器協会会長、井内卓嗣（一社）日本科学機器協会副会長。



関西では初となるJASIS関西2019が2月の初め3日間わたって開催された。テーマなどは前年に幕張で行われたJASISを踏襲している。開催規模は93社、176小間。新技術説明会では23社から68タイトルの技術が紹介された。来場者は寒い時期にもかかわらず3日間トータルで4038人。



ORK誌では今回の展示参加企業93社を全て取材し、ORK誌に特集として掲載した。今後は紙媒体から、インターネットを媒体とするようになれば速報性などを加味し、対応していきたいと思う。

JASIS関西 2023

会期 2023.2.1~3
場所 グランキューブ大阪

コロナ禍がようやく一段落つき、約2年遅れてJASIS関西が開催されることになった。今回の展示参加は100社179コマ。また来場者は1日1001人、2日1156人、3日1367人であった。今回は開催にこぎ着けただけで、スタッフは胸をなで下ろしている。次回は大阪万博が行われる2025年が予定されている。



コロナ禍により4年ぶりに開催。代表者4名（左から）（一社）日本分析機器工業会の大井泉副会長と中本晃会長。（一社）日本科学機器協会の長谷川壽一会長と井内卓嗣副会長によるオープニングのテープカットの後、JASIS関西は盛大に開催された。



グランキューブ大阪（大阪府立国際会議場）の3階の展示フロアに参加された企業は100社179小間。蓄電池やライフサイエンス、新素材など関西が強みとしている企業からも多数の参加があった。10階フロアでは新素材を始め新技術説明会が行われました。



大阪科学機器協会に加盟している企業からは参加100社中、36社の参加があった。

1980 (昭和55) 8 協会事務局に初の専従者を置く
モスクワオリンピック不参加

1981 (昭和56) 4 会誌「ORKだよ!」200号発行
岡野健次氏、第6代会長に就任

11 第8回科学機器展を
大阪見本市港会場で開催
英国、チャールズ皇太子と
ダイアナ妃結婚

1982 (昭和57) 1 第1回友好団体
合同新年互礼会開催

11 創立30周年記念式典を
ホテル日航大阪で開催
上越新幹線開通

1983 (昭和58) 11 第1回ボウリング大会開催
第1回秋季懇親会を
有馬ランドホテルで開催

ロッキード裁判で
田中元首相に実刑判決
NHKドラマ「おしん」人気を呼ぶ

1984 (昭和59) 3 会誌234号から「ORK」と改称

グリコ・森永事件

ORK GRAFFTI

ソフトボール

第36回
2022
2013-2022



IMODZURU [(株)島津理化]が頭角を表したのは32回大会。連覇を続けていたニッカーを制しての優勝でした。翌年はスローピッチの部からファーストピッチの部へ鞍替えしたケ城に王座を渡しますが、2022年、スロー・ファーストピッチが統合された中で優勝。打撃力はもちろん優れたチーム力が見事で、当分は「IMODZURUの時代が続く」と予測する人も!!

会員の親睦のために野球大会を始めたのは1953 [昭和28]年。春と秋にリーグ戦が行われていました。参加チームが過熱気味だったのか、一部の人々が楽しむ野球から、当時は女子のソフトボールチームも増えていることもあり、ルールも野球に似ているソフトボール大会に変わったのは1985 (昭和60)年。多いときには30チームを超えるエントリーもありました。



21年からソフトボール部会の委員長を務めるフクシマガリレイ (株)盛谷さん。それまで委員長を務めていた小島さんも副委員長の青井さんも、空を眺めるのが癖になってしまったのか、いつも天気を気にしている姿を思い浮かべます。



2019年は大土君の逆立ちに魅せられた。ニッカーと打撃戦が予想されたが、それにしても双方よく打った。背番号8のピッチャーもよく投げました。お父さんによく似た田中大土君がムードメーカーとして活躍。将来有望との声ですぐに響いています。



この10年、小島さん、盛谷さんとソフトボール委員長を排出しているGALILEI[フクシマガリレイ(株)]は大会の運営にも多くの方が動いてくださっています。今回の優勝のみならず、29回ファーストピッチの部では4連覇のニッカーを制して優勝。決勝戦に何らかの形で絡んでくる手強いチームです。

第34回
2020
2013-2022



10年ぶりの出場て優勝を掌中にしたNSK Devil [日本測器 (株)]。なんと優勝を湛え、社内号外が出ました。2022年には統合チームで準優勝を果たしました。



福島会長と幼なじみの牧野さんのお二人はもう何年も連れだって観戦。もう年中行事だそうです。



多くの選手団が楽しそうにプレーして下さるAS ONEチーム。大会運営のためのボランティア STAFFも派遣してくれています。気持ちのいいチームです。



ソフトボール副部会長の青井社長も大会に選手としても参加しますが、モトヤマ [(株)モトヤマ]の伊川社長も投手としてマウンドに立ちます。

SOFT BALL 2013-2022

第33回
2019
2013-2022



準優勝はDaido [(株)大同工業]いつもは一回戦が終わると会社に戻ら。この日は社員そろっての焼き肉の日、と決まっているからです。ところが、この日は勝ち続けて準優勝。さらに美味しい焼き肉が食べられたそうです。



出場を抑えるチームが多い中、元気に参加してくださったSEIKENN [(株)精研]

第32回
2018
2013-2022



スローピッチの部優勝は「ケ城」[理研計器 (株)]。初出場にして、軽やかに優勝を勝ち取っていきましました。実は19年の33回ではファーストピッチの部に代えて、そこでも優勝。なんとも凄いいチームです。



「まずは1回戦を。次も何とか」と思っている内に準優勝にこぎ着けたというユアクラブ [(株)ユア]。



ダルトンは変わった!この年、女性選手を5人投入。内3人はソフトボール選手を子を持つPTA仲間。母は根性・粘りともに強し!!



張り切りガールで今はママとしても頑張るニッカーの金原さん。早朝から外野を守るまじのハムサム女子!



選手の家族も社長も一丸となって楽しむ。だからソフトボールは面白い。常連参加のMスターズ [(株)マルイ]



毎年、大応援団とともにHANKOUKI [阪和化工機 (株)]登場。社員全員参加で楽しめます。



負けはしましたが「いい試合だった」という瑞穂特殊部隊 [瑞穂化成工業 (株)]の大塚キャプテン。



第31回
2017
2013-2022

この10年だけでも4回優勝の快ニッカトー。黄金のバッテリー、強打者揃い。強いだけでなく、愉快でチームワークも抜群。ただ18年以降の強敵は岸和田「だんじり祭り」とも。



ブルーと白のユニフォームが青空に映えるkoyo [光洋サーモシステム (株)]



逆転したのを逆転されて優勝こそ逃したが、手に汗握るいい試合をしたキングフィッシュャーズ [(株)三ツワフロンテック]



第30回
2016
2013-2022

ファーストピッチの部に転身して、いきなり優勝のAZ [(株)アズハイオ]。宙に舞うのはチームと会社の要・柚木社長。



「久々の優勝の美酒に酔う」とニコインステックのキャプテン堀さん。



「初戦オオモリとの同点ジャンケン勝負に勝って勢いが増しました」と荒木社長。ジャンケン、恐るべし!



10年で2度の優勝。「無失点の2回はピッチャーの頑張り」と東亜ディーケーケー (株)の浦監督。



前年は初戦敗退のHTS [(株)堀場テクノサービス]がいい笑顔です。

第29回
2015
2013-2022



大きな期待の新人・樋口さんが登場したのが15年。Comfix [(株)西山製作所]のチーム写真は21年版。



チームピラ [新光電子 (株)関西営業所]の面々は明石から早朝にかけてグランド整備などに力を貸してくれます。



2年後に増田理化グループ化でケニス・増田チームに。

第28回
2014
2013-2022



28回大会のスローピッチの部優勝はAZ。「今日のMVPは2回戦のジャンケン勝利を引き出した池田君」といわしめたジャンケン負けの相手はエンジェルス。前年は準優勝を勝ち取った強豪というのに。



1回裏でケニス逆転を豪語したのに約束守れず「ごめんなさい」と [(株)ダルトン] チーム。



ジャンケンを笑う者、ジャンケンに泣く一ある有名な諺ー



前大会で念願の昼休み越えを果たし、今回は子どもたちの声援を受けて登場のORK II会メンバー



最も雨が激しい時間帯に頑張ってくれたムラカミ [(株)村上衡器製作所]



オレンジのユニフォームとオレンジの横断幕。どこからでも直ぐ分かるラボ球部 [ヤマト科学 (株)]



2012年9月に入会した広瀬化学薬品 (株)が初参加。女性投手がカッコよかったです。



27回は雨模様の大会で、パパの応援に来たという浦辺しんちゃんもレインコート姿です。あれから10年、どんな青年になったのだから。

第27回
2013
2013-2022



同じくパパの応援に来たという光ちゃん。

- 1985 (昭和60)
 - 9 第1回ソフトボール大会開催
 - 10 第10回科学機器展をインテック大阪で開催
阪神タイガース初の日本一
- 1986 (昭和61)
 - 5 小山栄一氏、第7代会長に就任
 - 10 会誌「ORK」300号発行
男女雇用機会均等法
チェルノブイリ原子力発電所事故
- 1987 (昭和62)
 - 10 第11回科学機器展をインテック大阪で開催
国鉄民営化・JR6社に分社化
- 1989 (平成元)
 - 1 第1回ORKビジネスセミナー開催
 - 10 ORK II会発足
昭和天皇崩御 昭和から平成へ
ベルリンの壁撤去
- 1990 (平成2)
 - 大阪で花と緑の博覧会開催
- 1992 (平成4)
 - 創立40周年記念式典をホテルニューオオタニで開催
- 1994 (平成6)
 - 6 第100回記念ORKゴルフ大会開催
松本サリン事件起こる
関西国際空港開港
- 1997 (平成9)
 - 11 第16回科学機器展は粉体工業展と同時開催
温暖化防止京都会議で京都議定書採択
- 1998 (平成10)
 - 4 中川清美氏、第8代理事長に就任
ORK II会10周年記念式典開催
長野冬季オリンピック開催
- 1999 (平成11)
 - 4 協会ホームページ開設
会誌「ORK」400号発行
EU単一通貨ユーロ11カ国で導入

| 開催日 | ファーストピッチ | スローピッチ |
|------|-----------------|-----------|
| 2011 | 台風の為中止 | |
| 2012 | ニッカトー | SUS48 |
| 2013 | ニッカトー | 東亜DKK |
| 2014 | ニッカトー | AZ |
| 2015 | FUKUPPY | 東亜DKK |
| 2016 | AZ | ニコインステック |
| 2017 | ニッカトー | koyo |
| 2018 | IMODZURU | ヶ城(がじょう) |
| 2019 | ヶ城(がじょう) | koyo |
| 2020 | GALILEI | NSK Devil |
| 2021 | コロナ禍緊急事態宣言により中止 | |
| 2022 | | IMODZURU |

Beer Party 2013



Beer Party ビアパーティー 会員交流会

真夏の祭典ビアパーティー
親しみある協会をめざし、毎年多くの会員企業の社員の方に参加いただき、会場を貸し切りに開催されます。会員交流会のタイトルにふさわしくあちらこちらで名刺交換も始まり、また大抽選会も行われ、当選番号が発表されるたびに歓喜の渦で会場も最高潮に。

Beer Party 2014



初参加の企業さんも会場の人数の多さと雰囲気にはびっくり



Beer Party 2015



社内の懇親にも一役かっているかな？

Beer Party 2016



Beer Party 2017



広い会場も超満員で、あちらこちらで幾度となく乾杯の掛け声が……



Beer Party 2018



賞品ゲットで満面の笑み。参加いただいた女性全員に賞品も！



Beer Party 2019



大いに飲んで食べて、時間を忘れて大に語り合う。

- 2002 (平成14)
 - 3 第1回バイオベンチャー大賞授賞式
 - 11 創立50周年記念式典開催 (帝国ホテル大阪)
 - 島津製作所の田中耕一氏にノーベル化学賞
- 2003 (平成15)
 - 全日本科学機器展in大阪2003 (インテック大阪で開催)
 - 小惑星探査機「はやぶさ」打ち上げ
- 2004 (平成16)
 - 4 松井義之氏、第9代理事長に就任
 - 11 第20回秋季懇親会を開催
- 2005 (平成17)
 - 7 第1回会員交流会(ビアパーティー)開催
 - 名古屋にて「愛・地球博」開催
- 2006 (平成18)
 - 8 第20回ORKソフトボール大会
 - 12 第150回記念ORKゴルフ大会
 - 神戸空港開港
 - 堺市、政令指定都市に
- 2007 (平成19)
 - 10 全日本科学機器展in大阪2007 インテック大阪で開催
 - 関西国際空港第2期工事完了
 - 郵政民営化
- 2008 (平成20)
 - 4 ORK II会創立20周年記念式典開催
 - リーマンショック
- 2009 (平成21)
 - 10 全日本科学機器展in大阪2009をインテック大阪で開催
 - 総選挙で民主党圧勝 政権交代
- 2010 (平成22)
 - 4 第100回ビジネスセミナー開催
 - 第50回定時総会開催
 - 第10代理事長に山崎寛治氏、就任
 - 小惑星探査機はやぶさ帰還
- 2011 (平成23)
 - 10 サイエンスエキスポ関西2011をインテック大阪で開催
 - 3.11東日本大震災

友好団体講演会

毎年6月頃に友好3団体による講演会が開催されます。スポーツ界や経済界で活躍されている方や、災害などが多かったことから医学界の方に講演をお願いする機会も増えました。



2014年 青木 豊彦氏
(株)アオキ取締役会長



2016年 高崎 充弘氏
株式会社エンジニア 代表取締役社長



2017年 川崎 貞男氏
南和歌山医療センター 教育研修部長



2018年 新村 猛氏
がんフードサービス株式会社 取締役副社長



2019年 廣瀬 俊朗氏
元ラグビーワールドカップ代表



2022年 高橋 弘枝氏
公益財団法人大阪府看護協会 前会長

ORK GRAFFTI ▶▶

ボウリング

ORK ボウリング大会が始まったのは1983（昭和58）年。日本中にボウリングブームが沸き起こったのは1970年代初めで、人気プロボラーが誕生し、ボウリング人口は2000万人を突破。その後、下火になったものの1990年代には親睦のスポーツの場として見直され、第二次ブームが沸き起こりました。仕事帰りに会社の垣根を越えて楽しまれてきました。



大会開始にあたり、前年優勝者による始球式が行われます。



第30回大会には25社112名が参加しました。



ORK ボウリング大会横断幕



初対面でもすぐに打ち解けチーム優勝を目指します。



開会式の様子と、競技後に開かれる懇親会。テーブルは競技チーム毎に配置される。戦い終えあちらこちらで会話が弾む。



野球大会同様ユニフォーム姿で登場した佐竹マルチミクス(株)の面々。といってもお顔は見えませんが。



第35回までは新大阪にあるイーグルボウルで大会は開催されたが、2019年には梅田の桜橋ボウルに場所を移して開催。

ORK(オーク)の10年

会員のコミュニケーションツールとして1961（昭和36）年に創刊されたORKは2023年春号で555号を数えます。ORK（オーク）は親しみある協会誌を目指し広告を含めオールカラーに刷新。会員の皆様からの寄稿をお待ちしています。



▶▶ 2013-2023

GOLF

協会では会員企業の親睦を目的としゴルフ大会を開催しています。第1回大会は1969（昭和44年）年に茨木国際ゴルフ倶楽部で23名が参加し開催されました。今年度で実に215回の開催となり多くの好プレー珍プレーが生まれております。



第200回記念大会（2019.5.25）は茨木カントリー倶楽部で参加者24名で開催。



第180回大会（2014.6.7）吉川カントリー倶楽部で開催



第190回大会（2018.11.26）はマダムJゴルフ倶楽部で開催



70周年記念大会（2022.11.23）は花屋敷ゴルフ倶楽部で参加者29名で開催。生憎の小雨模様となりましたが、和気藹々と楽しい1日となりました。



秋懇

有馬温泉で秋季大懇親会を開催。
ゆったりと関西屈指の名湯につかり、日頃の疲れを癒し、懇親の輪を広げます。
また2日目は企業様から毎回多くの寄贈品をいただき大抽選会が行われます。



秋の有馬温泉で



第32回大阪科学機器協会秋季大懇親会



年齢も会社も飛び越えて!

2日目の大抽選会也大いに盛り上がります。



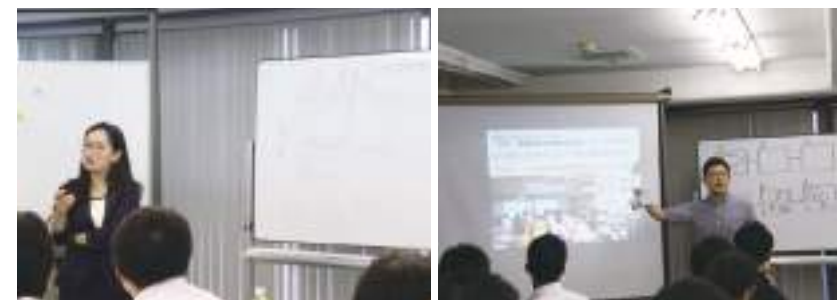
2023年度の新人研修には入社年度を超えて多くの新人が集ったが、それはコロナ禍で、人と直接会う事が叶わなかった若い人には非常に有益な時間だったと言えます。彼らの今後を業界を挙げて見守っていただきたいと思います。

研修会

会員企業のスキルアップをめざし、新入社員研修やビジネスセミナーなどさまざまな研修会を開催。
日頃話すことのない色々な企業の方と話ができるのも好評です。



毎年4月初めにビジネスマナーを中心に新入社員研修を開催



対象者別に合わせた色々なテーマで開催し、スキルアップをはかります。



研修は参加者をグループ化して進められることが多い。グループで討議し、結果を代表者が交代で発表する手法が用いられるので、自社会議に置き換えて思考する習慣も身につくようです。

- 2012 (平成23)**
 - 11 110回ビジネスセミナー開催
創立60周年記念式典開催
(帝国ホテル大阪)
 - 京都大学 iPS 細胞の
山中伸弥教授にノーベル賞
- 2013 (平成25)**
 - 5 会誌「ORK」500号発行
 - 10 第30回ボウリング大会開催
 - 11 サイエンスエキスポ関西2013を
インテック大阪で開催
 - 富士山が世界文化遺産に決定
特定秘密保護法成立
- 2014 (平成26)**
 - 4 第11代理事長に荒木利一氏が就任
 - 7 第10回会員交流会(ビアパーティ)開催
第40回友好団体合同講演会開催
 - 「STAP 細胞はあります」論文偽造事件
超高層ビル「あべのハルカス」開業
- 2016 (平成28)**
 - 8 第30回ORKソフトボール大会開催
 - 12 サイエンスエキスポ2016を
グランキューブ大阪で開催
 - 伊勢志摩サミット開催・
オバマ大統領広島訪問
天皇陛下、「生前退位」望まれる
- 2017 (平成29)**
 - 10 第30回秋季大懇親会開催
 - 「働き方改革実行計画」決定
バブル後、最高の株高
- 2018 (平成30)**
 - ORK 一部カラー化
 - 8 ORK II 会創立30周年記念式典開催
 - 西日本豪雨・北海道地震、災害相次ぐ
- 2019 (令和元)**
 - 2 JASIS関西2019をグランキューブで開催
 - 5 第200回記念ORKゴルフ大会を
茨木CCで開催
 - 新元号「令和」、新天皇即位
ラグビー W 杯日本開催

ORK GRAFFTI

ビジネスセミナー 施設見学

研修委員会が主催する「ビジネスセミナー・施設見学会」は例年、年度末に行われ、関西の技術・人材・経営手法などに優れた企業を実際に訪問して学ぶセミナーです。

2012.3.7 (木津～伏見)

- ・ (独)日本原子力研究開発機構関西科学研究所
- ・ アルミ加工の山本精工 (株)
- ・ 月桂冠大倉記念館



「(独)日本原子力研究開発機構 関西科学研究所」の前で。旗を持つのは研修委員担当理事の楢作氏 [当時 エスペック (株)]

2013-2023



(株)堀場製作所「HORIBA BIWAKO E-HARBOR」

2017.2.22 (琵琶湖周辺)

- ・ (株)金山精機製作所
- ・ HORIBA BIWAKO E-HARBOR

2018.2.27 (神戸)

- ・ アシックス スポーツミュージアム・UCCコーヒー博物館
- ・ 灘浜サイエンススクエア&神鋼神戸発電所



大阪ガス「ガス科学館」



ダイキン TIC

2019.2.27

- ・ 大阪ガス科学館
- ・ ダイキンTIC
- ・ パナソニックミュージアム

2020.2.26

- ・ フクシマガリレイ (株)
- ・ ヤマトグループ 関西ゲートウェイ
- ・ 昭和電機 (株)



(株)大同工業所



2020 (令和2)

- 4 第60回定時総会はコロナ禍により書面議決開催

コロナ急拡大により「不要不急の外出」自粛

東京オリンピック・パラリンピックの1年後開催が決定

2021 (令和3)

- コロナ禍により定例行事が中止を余儀なくされる

会誌「ORK」：特集「コロナを超えて」を組む

コロナワクチンの接種進む

2度目となる東京五輪開催。205カ国、選手1万1000人が参加

2022 (令和4)

- 11 創立70周年式典を帝国ホテル大阪で開催

安倍元首相銃弾に倒れる。統一協会問題明るみに

サッカーW杯カタール大会で日本チーム活躍

2023 (令和5)

- 2 JASIS関西2023をグランキューブ大阪で開催

WBCで侍ジャパン、世界1位に



フクシマガリレイ (株)

2023.2.22

- ・ ATCグリーンエコプラザ
- ・ (株)中農製作所
- ・ (株)大同工業所



(株)中農製作所



(株)大同工業所の防爆バリア



(財)近畿高エネルギー加工技術研究所

2013.3.7 (吹田～大山崎)

- ・ (財)近畿高エネルギー加工技術研究所
- ・ 山岡金属工業 (株)ミュージアム夢工房
- ・ サントリー (株)山崎蒸留所



山岡金属工業 (株)



山岡金属工業 [ミュージアム夢工房]で説明を受ける

2014.2.26 (神戸)

- ・ 大昭和精機 (株)
- ・ (独)理化学研究所計算科学研究機構スーパーコンピュータ「京」
- ・ 白鶴酒造資料館

2015.2.25 (吹田)

- ・ (独)情報通信研究機構未来ICT研究所
- ・ (株)ダスキン大阪中央工場
- ・ アサヒビール (株)吹田工場



サントリー (株)山崎蒸留所

2016.3.2 (泉南)

- ・ (株)ベイオーク (車の落札)・関西国際空港
- ・ (株)河内ワイン



(株)河内ワイン



関西国際空港へ続く「スカイゲートブリッジ」

大阪科学機器協会 会員一覧

(在籍期間・2023年7月1日現在)

1952 (昭和27)年、日本理化学機器商工会近畿支部『大阪部会』が発足したとき、大阪部会員として名乗りを上げたのは86社。それから70年後の今、大阪科学機器協会は213社(2023年10月現在)が名を連ねる大組織となった。

日本理化学機器商工会も一般社団法人日本科学機器協会と名称を変え、全国10団体(北海道科学機器協会、東北科学機器協会、一般社団法人東京科学機器協会、信越科学機器協会、東海科学機器協会、北陸科学機器協会、京都科学機器協会、大阪科学機器協会、中四国科学機器協会、九州科学機器協会)で構成されている。会員企業数は1000社を超え、その内訳としてメーカーが30%、販売業が57%、その他が13%となっている。

生駒山上から見た日の出

70年(31社)

- 安積濾紙株式会社
- アドバンテック東洋株式会社
- 石井化学器械株式会社
- エスベック株式会社
- 扇理化精器株式会社
- 株式会社岡野製作所
- 株式会社北浜製作所
- 共和理化学工業株式会社
- ケニス株式会社
- 佐竹マルチミクス株式会社
- 株式会社サンワ
- 株式会社柴尾商店
- 株式会社島津製作所
- 白井松器械株式会社
- 株式会社相互理化学硝子製作所
- 大科工業株式会社
- 大研科学産業株式会社
- 大研理化学器械株式会社
- 富山産業株式会社
- 株式会社西山製作所
- 株式会社ニッカトー
- 株式会社堀川製作所
- 増田理化学工業株式会社
- 株式会社マルイ
- 瑞穂器械工業株式会社
- 株式会社三ツワフロンテック
- 株式会社モトヤマ
- 株式会社安田商店
- 株式会社ヤマオカ
- 山中化学株式会社
- 太洋株式会社

60年(21社)

- アズワン株式会社
- 入江株式会社
- 久保田商事株式会社
- 株式会社ジェイ・サイエンス関西
- 株式会社シンコー理化
- 株式会社ダルトン
- 東亜ディーケーケー株式会社
- 株式会社日晃商会
- 株式会社日本医化器械製作所
- 日本電色工業株式会社
- 阪和化工機株式会社
- 富士理化学工業株式会社
- 株式会社マルエム
- 株式会社宮原計量器製作所
- 宮本理研工業株式会社
- 株式会社村上衡器製作所
- 安井器械株式会社
- 安田産業株式会社
- 株式会社山下製作所
- 山田護謨商店
- ヤマト科学株式会社

50年(32社)

- アラム株式会社
- 岩田硝子工業株式会社
- エムエス機器株式会社
- 株式会社大船製作所
- 株式会社キシノ科学機械
- 株式会社ケツト科学研究所
- 株式会社コクサン
- 株式会社佐藤計量器製作所
- 三栄化工株式会社
- 株式会社サンコウ電子研究所
- 株式会社サンプラテック
- 株式会社三洋商事
- 株式会社島津理化
- 株式会社シマデン
- 伸栄産業株式会社
- 新日本理化学器械株式会社
- 株式会社双英理研
- 第一理化株式会社
- 株式会社大進製作所
- 株式会社チノー
- 株式会社テラオカ
- 株式会社天満理化研究所
- ナガノサイエンス株式会社
- 株式会社ニコンソリューションズ
- 日電理化硝子株式会社
- ニッコー・ハンセン株式会社
- 日本測器株式会社
- PHC株式会社
- 株式会社マスダ科学
- ミクロン計測器株式会社
- 宮野医療器株式会社
- 山下化学器械店

40年(26社)

- 株式会社アイシス
- 株式会社飯田製作所
- 石井ブラシ産業株式会社
- 小野商事株式会社
- 京都電子工業株式会社
- 株式会社ケムコプラス
- 株式会社三商
- 三和化研工業株式会社
- 株式会社島川製作所
- 株式会社新大阪商会
- 新光電子株式会社
- 株式会社シンマルエンタープライゼス
- 株式会社セントラル科学貿易
- 大科電器株式会社
- タイテック株式会社
- 株式会社大同工業所
- 大平理化学工業株式会社
- 株式会社多田製作所
- 有限会社塚本製作所
- 東栄株式会社
- 東京理化学器械株式会社
- 株式会社トミー精工
- 株式会社フロンケミカル
- 株式会社美和製作所
- 山善株式会社
- 株式会社ユーアイ

30年(24社)

- 株式会社石井理化
- 泉電熱株式会社
- 株式会社イナ・オブティカ
- 株式会社稲葉屋冷熱産業
- エヌ・サイエンス株式会社
- 大阪ケミカル株式会社
- 大阪フローメーター工業株式会社
- 株式会社オクトサイエンス
- オーヨー株式会社
- 小林計測器株式会社
- コフロック株式会社
- 株式会社サカエ
- ジーエルサイエンス株式会社
- 柴田科学株式会社
- 島津サイエンス西日本株式会社
- 株式会社第一科学
- 宝産業株式会社
- 貞徳舎株式会社
- 西野産業株式会社
- 株式会社日本メデカルサイエンス
- 株式会社堀場製作所
- マイクロトラック・ベル株式会社
- 瑞穂化学株式会社
- 山重製作所

20年(19社)

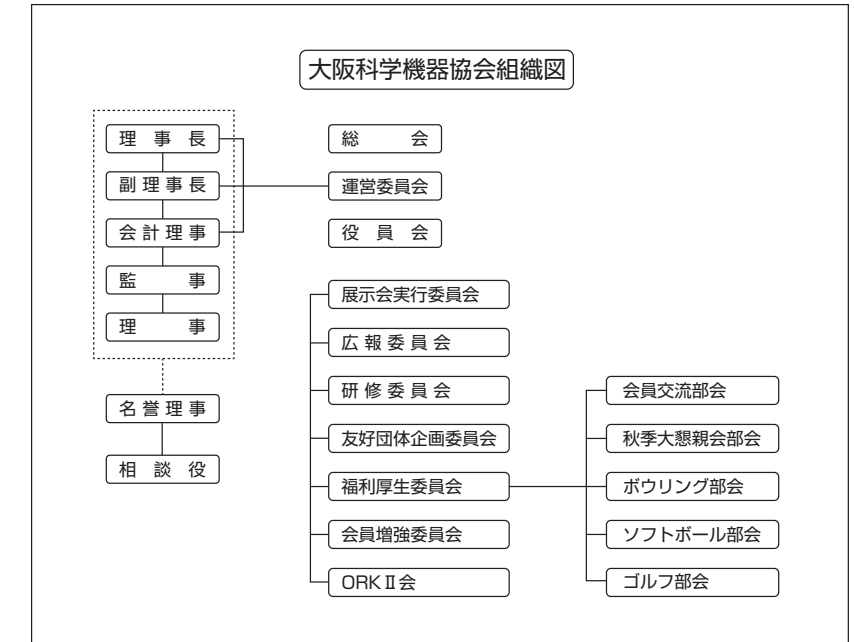
- 株式会社アズバイオ
- 株式会社アテクト
- IKA ジャパン株式会社
- 近江オドエアサービス株式会社
- オーエムヒーター株式会社
- 株式会社大阪ビーエス
- 株式会社コクゴ
- 株式会社サンキ精機
- 三進金属工業株式会社
- 神港テクノス株式会社
- 杉本商事株式会社
- 大日産業株式会社
- 株式会社タナカテック
- 株式会社ニチリョー
- 株式会社日計製作所
- 株式会社ヒラサワ
- フクシマガリレイ株式会社
- ユラボジャパン株式会社

10年以上(26社)

- 株式会社アントンパール・ジャパン
- 株式会社池田理化
- エルシーサイエンス株式会社
- 株式会社エンバイシス
- 株式会社オオモリ
- (株)岡崎製作所
- 株式会社オカムラ
- オリックス株式会社
- 北浜計測株式会社
- 佐藤真空株式会社
- 株式会社三笑堂
- 株式会社精研
- 株式会社ダイトー
- 株式会社鳥羽商会
- 日本計器株式会社
- 日本製紙クレシア株式会社
- 日本フリーザー株式会社
- PerkinElmer Japan 合同会社
- 株式会社服部
- 株式会社日立ハイテックフィールドイング
- 広瀬化学薬品株式会社
- ホダカ株式会社
- 株式会社堀場テクノサービス
- 丸文ウエスト株式会社
- 瑞穂化成工業株式会社
- 有限会社ヤマナカ

10年以内(34社)

- 株式会社朝日ラボ交易
- ウインテック株式会社
- 宇野株式会社
- 株式会社エアテック
- 株式会社エーディエフ
- 株式会社エス・ティ・ジャパン
- 株式会社大阪真空機器製作所
- 大塚電子株式会社
- 株式会社ガステック
- カノマックスアナリティカル株式会社
- 株式会社KMR
- キコーテック株式会社
- 金陵電機株式会社
- 倉敷紡績株式会社
- 株式会社クロマニックテクノロジーズ
- 株式会社コンゴー
- 三宝化成株式会社
- CCC 株式会社
- 篠原電機株式会社
- 伸栄紙器工業株式会社
- 株式会社セミテック
- 大洋計器株式会社
- 株式会社トミナガ
- トラスコ中山株式会社
- 株式会社日本サイエンスコア
- 野田運送株式会社
- 株式会社日立産機システム
- 株式会社HIRANUMA
- ブルームビルド株式会社
- 株式会社堀場アドバンステクノ
- 株式会社マコト電気
- 株式会社三井新
- 宮本化成工業所
- 理研計器株式会社



一般社団法人 日本科学機器協会



編集後記

70周年の節目として、2022年11月に行われました記念祝賀会や記念誌作成に参加させていただき光栄に存じます。永く協会活動にご参加いただいた会員企業様、歴代の理事の方々、事業活動のお手伝いをいただいた各委員の皆様へ深く感謝申し上げます。

また記念誌作成にあたり、お忙しい中のご執筆や、写真をご提供いただきました会員企業様には厚く御礼申し上げます。

この10年は、東日本大震災からの復興に始まり東京オリンピックの開催やコロナウイルスの感染と様々な出来事がありました。日銀の黒田総裁による異次元の金融緩和がはじまり、サプライチェーンが途切れ材料不足や品切れが相次ぐ中、ようやく賃金も上昇し始め各種値上げに対する抵抗感のようなものが薄れてきたようにも思います。

コロナ禍に翻弄された3年でしたが、ようやくマスクを外せるようになってきましたし、各企業様でもリモート会議や在宅勤務など、今までと働き方がかなり様変わりしたと思います。今回、比較的若い経営者や社員の方にお集まりいただき、これからの10年を考える座談会の司会をさせていただきました。テーマの設定や話の進め方など、不慣れなためお話をうまく引き出せなかったのではないかと反省しております。

これからも80・90・100周年へと業界が継続し発展していきますように祈念いたしまして結びの言葉とさせていただきます。

昨年11月に開催されました創立70周年記念祝賀会の終了及び今回の創立70周年記念誌も無事完成し発行が出来ました。記念誌制作にあたり会員の皆様にはお忙しい中、原稿の執筆や写真の提供などご協力をいただき有難うございました。心よりお礼申し上げます。

この10年の中で大きな出来事と言えばやはり新型コロナの感染拡大ではないでしょうか。まさしく「未曾有の災禍」で、3年前はこれだけ長くこうした対応が続くと、当時誰も考えてなかったのではないのでしょうか。新型コロナウイルス感染拡大は、日本のビジネスに大きな影響を与えました。ビジネスの現場においても、コロナ陽性者や濃厚接触者が発生し、イベント・セミナーを中止せざるを得ない、通常時とは違うアクションが必要になり、「リモートワーク」「3密」など多くの新しい言葉が定着しました。協会においても、総会をはじめ催事やセミナーの中止、協会誌の休刊等せざるおえない状況になりました。今回「5類」に引き下げられ、あらゆる場面で日常を取り戻すよう心から願うばかりです。

協会として次の80周年に向け新たなスタートを切りました。先人たちが作り上げた歴史を継承すべく、次の10年に向け進めたいと思います。

役員構成

理事長 **井内卓嗣**
アズワン株式会社

理事 **盛谷洋一**
フクシマガリレイ株式会社

監事 **西野佳成**
西野産業株式会社

副理事長 **札幌勇二**
瑞穂器械工業株式会社

島津 達
株式会社島津製作所

名誉理事 **松井義之**
株式会社モトヤマ

青井和夫
株式会社北浜製作所

辻 寿憲
大科電器株式会社

相談役 **安藤秀康**
大平理化学工業株式会社

会計理事 **加藤学司**
株式会社サンブラテック

浜野寿之
エスベック株式会社

岸野俊夫
株式会社キシノ科学機械

西松正文
ケニス株式会社

弘野俊彦
白井松器械株式会社

町井秀年
阪和化工機株式会社

理事 **上野浩一**
入江株式会社

百合広朗
株式会社堀場製作所

事務局長 **松本哲門**
大阪科学機器協会

梅田賢二
株式会社ニッカトー

吉田 拓
大阪ケミカル株式会社

70周年誌制作スタッフ

編集：野澤編集事務所 野澤好子
デザイン：(株) mdo デザイン事務所 上田 彩
撮影：(有) studio T-BONE 有本ヒデヲ

大阪科学機器協会創立70周年記念誌

2023年●月●日発行

発行：大阪科学機器協会
大阪市北区神山町8丁目1番
梅田辰巳ビル6F
TEL：06-6364-7113
URL：//WWW.sia-osaka.gr.jp
E-mail：ork@sia-osaka.gr.jp

印刷製本：加陽印刷株式会社
大阪市都島区高倉町3-5-28
TEL：06-6922-5871

本文中の会社名は2023年7月現在の社名を使用しています。©他誌・他媒体への無断転載を禁じます。